

鏡野町学校施設長寿命化計画

2020年（令和2年）3月

鏡 野 町

目次

1. 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	1
1-1. 背景	1
1-2. 目的	1
1-3. 計画の位置付け	2
1-4. 計画期間	3
1-5. 対象施設	4
2. 鏡野町の現状	6
2-1. 上位計画の整理	6
2-2. 人口の推移と見通し	9
2-3. 財政の状況と見通し	12
3. 学校施設の実態	16
3-1. 学校施設の運営状況・活用状況の実態	16
3-2. 学校施設の老朽化状況の実態	28
3-3. 今後の維持・更新コストシミュレーション（従来型）	41
4. 学校施設整備の基本的な方針等	43
4-1. 学校施設の目指すべき姿	43
4-2. 改修等の基本的な方針	44
4-3. 今後の維持・更新コストシミュレーション（長寿命化型）	48
5. 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	51
5-1. 改修等の整備水準等の基本的な方針	51
5-2. 維持管理の項目・手法等	53
6. 長寿命化計画の実施計画	54
6-1. 検討の流れ	54
6-2. 改修等の優先順位付けと実施計画	55
6-3. 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果	60
7. 長寿命化計画の継続的運用方針	61
7-1. 情報基盤の整備と活用	61
7-2. 推進体制等の整備	61
7-3. フォローアップ	61
8. 資料編	1
8-1. 修繕周期の目安	1
8-2. 用語集	3

- 本計画に示す学校施設に関するデータは、特に注記しない限り、令和元年度の公立学校施設台帳にもとづくものです。
- 本計画に示す今後の改修及び建替えに係る費用は、「学校施設の長寿命化計画策定にかかる解説書」の付属ソフトにより試算した概算費用であり、実際の工事費用の把握には事業実施時に改めて調査や見積りが必要です。
- 図表中の数値は、端数処理の関係上、合計が一致しない場合があります。

1. 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1-1. 背景

- 人口減少や少子高齢化の進行、厳しい財政状況の中、学校をはじめ公共施設の中長期的な施設整備の方針を示す「長寿命化計画」の策定が求められています。

人口減少や少子高齢化の進行や、利用者ニーズの変化、依然として続く厳しい財政状況の中、公共施設等の現状や課題を把握し、長期的な視点のもと、施設の更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担の軽減や平準化を図り、公共施設等の最適な配置を実施することが必要となっています。

そこで、政府は2013年（平成25年）11月に国民の安全・安心の確保と、公共施設等の中長期的な維持管理・更新にかかるトータルコストの縮減や、予算の平準化を図るため、「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、“個別施設毎の長寿命化計画”を核とした、メンテナンスサイクルの構築を我が国全体として取り組む方針を示しました。

これを受け、2015年（平成27年）3月には、文部科学省による学校施設の維持管理に関する中長期的な取り組みの方向性を明らかにする「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」が策定され、国や地方公共団体等が一丸となって学校施設の戦略的な維持管理・更新等の推進に向けた取り組みが進められています。

こうした中、鏡野町（以下、「本町」という。）では2017年（平成29年）3月に、公共施設等の長期的な視点による更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うため、「鏡野町公共施設等総合管理計画」を策定しました。このうち学校教育系施設の延床面積は、本町が所有する公共施設（建築物）の中で最も大きな割合を占めている一方で、将来的な年少人口の減少が見込まれていることから、学校施設においても今後の在り方を検討することが必要となってきました。

こうした状況を踏まえ、「鏡野町公共施設等総合管理計画」との整合を図りながら、学校を中心とした地域の将来ビジョンや学校施設の目指すべき姿を踏まえた上で、中長期的な施設整備の具体的方針及び計画を示す「学校施設長寿命化計画」の策定が求められています。

1-2. 目的

- 学校施設・設備の更新・改修及び維持管理の中長期的な計画の策定により財政負担の軽減・平準化を図りながら、安全・安心な教育環境を継続的に確保することを目的とします。

本町の学校施設は、施設の老朽化による不具合等の是正を図ることが課題となっています。

そこで、本町内の学校施設の老朽化等の状況を把握し、地域における学校施設の役割等を考慮した上で、学校施設・設備の更新・改修及び維持管理の中長期的な計画を策定することにより、学校施設の使用年数を延ばす「長寿命化」を推進するとともに、財政負担の軽減及び平準化を図りながら、安全・安心な教育環境を継続的に確保することを目的とします。

1-3. 計画の位置付け

- 本町の公共施設等マネジメントに関する基本方針を定めた「鏡野町公共施設等総合管理計画」の"学校施設に関する個別計画"として位置づけ、学校施設の長寿命化に向けた実施計画及び長寿命化計画の継続的運用方針を示します。

本計画は、「インフラ長寿命化基本計画」にもとづき、本町の公共施設等マネジメントに関する基本方針を定めた「鏡野町公共施設等総合管理計画」を上位計画とする"学校施設に関する個別計画"に位置づけ、上位計画との整合を図りながら、地域における学校施設の役割等を考慮した上で、長寿命化の実施計画及び長寿命化計画の継続的運用方針を示します。

また、文部科学省による「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」をはじめ、「学校施設の老朽化対策について（2013年3月）」、「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引（2015年4月）」等のガイドラインを踏まえた方針・計画とします。

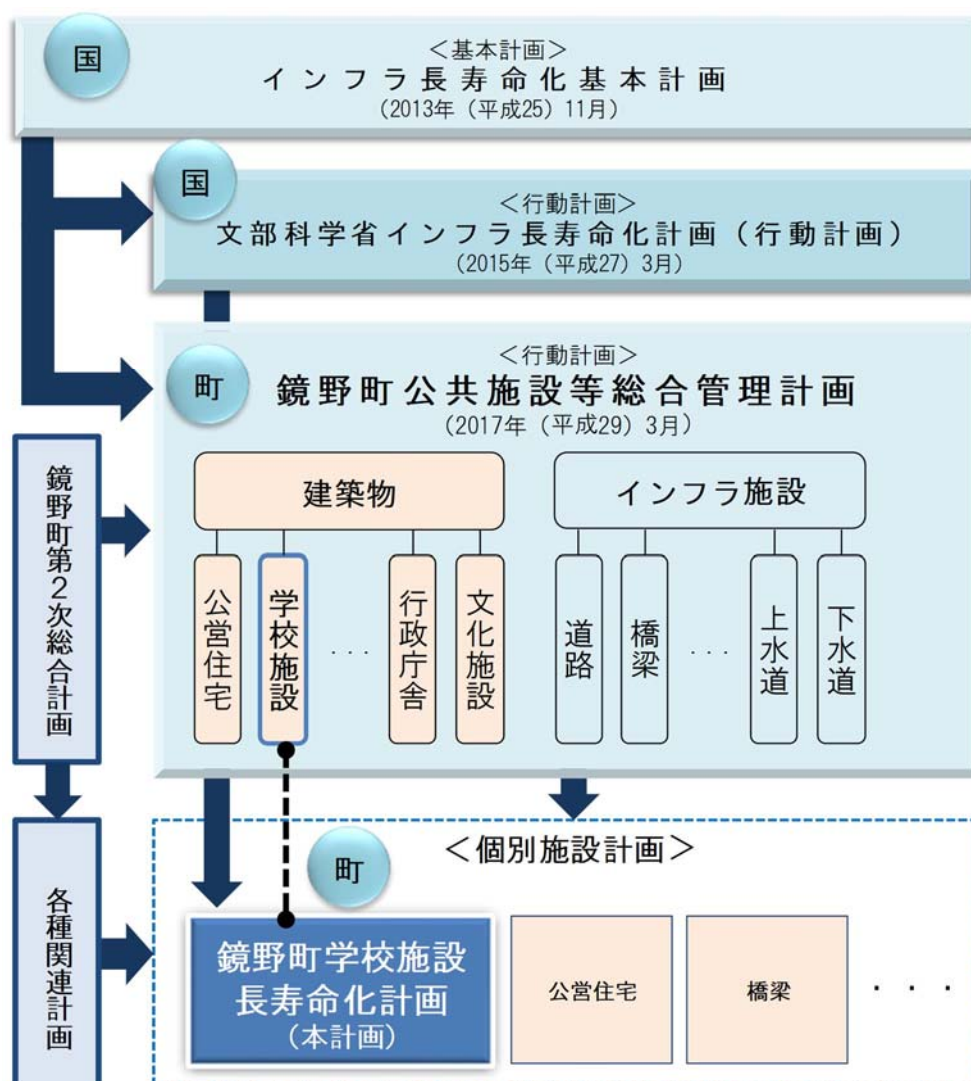


図 1-1 本計画の位置付け

1-5. 対象施設

本計画の対象施設は、以下の事項を踏まえ、小学校8校、中学校1校、幼稚園2園、共同調理場1施設の校舎及び屋内運動場等とします。（プール、屋外機械室、倉庫、教員宿舎などは対象外）

なお、南小学校「屋内運動場」及び学校給食共同調理場は、2019年度（令和元年度）に大規模改修を実施するため、老朽化状況調査の対象外とします。

《対象施設選定の考え方》

- 部室や倉庫等の小規模の付属建物を除き、延床面積 200 m²以上の建物を対象とします。
- ただし、延床面積が 200 m²未満でも学校運営上不可欠であると考えられる建物は対象とします。
- 学校施設台帳上では別棟とされている建物でも、建替えや改修を一体的に実施することが想定される建物（渡り廊下等）は、一体の建物として整理します。

表 1-1 対象施設

施設名	建物名	構造	階数 (階)	建築 年度	保有面積 (m ²)	備考
南小学校	管理教室棟	RC造	3	1985	3,704	
	食堂棟	S造	1	1985	485	
	屋内運動場	S造	2	1985	1,088	令和元年度：大規模改修実施
大野小学校	管理教室棟	RC造	3	1988	2,738	
	食堂棟	RC造	1	1988	376	
	屋内運動場	S造	2	1989	934	
鶴喜小学校	管理教室棟	RC造	3	1979	2,783	
	屋内運動場	S造	1	1980	768	
香々美小学校	管理教室棟	RC造	3	1989	1,840	
	食堂棟	S造	1	1989	206	
	屋内運動場	S造	1	1990	797	
香北小学校	教室棟	RC造	2	1974	825	教室棟2階増築部分を含む
	ランチルーム棟	W造	1	2019	94	
	屋内運動場	W造	2	1957	366	
奥津小学校	管理棟	RC造	2	1991	2,016	
	特別教室棟-1	RC造	2	1991	271	
	特別教室棟-2	RC造	2	1991	433	
	ランチルーム棟	RC造	1	1994	427	旧共同調理場
	屋内運動場	S造	2	1991	1,091	
上齋原小学校	小学校棟	RC造	2	1980	1,365	渡り廊下を含む
	特別教室棟	RC造	2	1987	326	
	屋内運動場	S造	1	1980	1,394	
富小学校	普通教室・特別教室棟	RC造	2	2000	1,431	
	給食棟	S造	1	2000	240	
	屋内運動場	S造	1	2001	1,217	
鏡野中学校	屋内運動場	S造	1	1974	1,202	倉庫、トイレを含む
	食堂棟	S造	1	1974	663	
	校舎棟	RC造	3	2004	6,935	
	講堂棟	RC造	2	2004	957	
	増築棟	W造	1	2015	234	
郷幼稚園	保育棟	RC造	1	1990	435	
上齋原幼稚園	保育棟	RC造	1	1980	260	令和元年度：休園中
鏡野町学校給食 共同調理場	共同調理場	S造	2	1998	778	共同調理場増築部分、食品納入 検査室を含む 令和元年度：大規模改修実施
合計					38,679	33棟
凡例	老朽化状況調査の対象外					



图 1-3 対象施設位置図

2. 鏡野町の現状

2-1. 上位計画の整理

(1) 鏡野町第2次総合計画

本町では、我が国における社会情勢の変化や、少子高齢化等の様々な課題に対応するため、更なる効果的かつ透明性の高い行政経営への取り組みが求められるなかで、計画期間において目指すべき将来像とその実現に向けた課題を明確にするとともに、定量的な指標と目標値を設定し、課題解決のための町民や行政等の役割分担と、限られた財源や人員の配分の仕組みを示した「鏡野町第2次総合計画（2016年）」を策定しました。

同計画においては、基本理念、将来像及び政策の柱を次のように整理しています。

《基本理念》
●交流・連携する里
●安心安全な里
●子どものきらめく夢・未来を実現する里
《将来像》
キャッチフレーズ 「森といで湯と田園文化の里」
スローガン 「ひとと自然にやさしい虹が広がる里」
《5つの柱（政策）》
1 こころあたたかい福祉の里づくり
2 地域経済を支える里づくり
3 創造豊かな教育・文化の里づくり
4 快適な生活環境の里づくり
5 みんなでつくる里づくり

出典：鏡野町「鏡野町第2次総合計画（2016年）」

5つ政策の柱のうち「3 創造豊かな教育・文化の里づくり」においては、学校教育の充実や、生涯学習の推進等の施策を講じることにより、未来を担う子ども達を見守り、育てる地域づくりや生涯学習活動により、すべての町民が人生の豊かさを実感でき、彩り豊かな文化を育むとともに、よりよく生きることができる町づくりを目指としています。

また、「5 みんなでつくる里づくり」においては、効率的な財政運営の推進や、職員の人材育成の推進等の施策を講じることにより、健全な財政運営と町民に信頼される町政運営を基本に、透明性の高い行政経営システムの確立を目指すこととしています。

3 創造豊かな教育・文化の里づくり

1 学校教育の充実

- 確かな学力の向上に向けての取組強化
- 教員の指導力向上
- 豊かな心と健やかな身体の育成
- 小中連携教育の推進と、情報教育・国際理解教育の充実

2 生涯学習の推進

- 多様化する町民の学習意欲に対応できる推進体制の構築
- 町民ニーズに対応した学習プログラムの検討
- 複合的な機能を備えた生涯学習施設や公民館の機能の充実の検討
- 地域において学習成果を活用するための核となる人材の育成

3 青少年の健全育成

- 郷土を愛する心の育成
- 青少年の規範意識の向上
- 豊かな心を育む教育の充実
- 地域全体で青少年の教育を支える仕組みづくり

4 生涯スポーツの推進

- それぞれの年齢や体力に応じたスポーツ活動が行える環境整備。
- 各スポーツ施設の整備・管理運営の充実
- 各種スポーツ団体や指導者の育成・支援
- 総合型地域スポーツクラブの育成・支援

5 文化財と伝統行事の継承

- 町内全体の文化財や地域文化の調査と有効活用
- 文化財や地域文化の保護に関する地域住民の理解
- 地域文化の継承に向けた教育の充実や地域の連携・強化
- 地域文化の継承のための後継者の育成

5 みんなでつくる里づくり

1 住民のまちづくりの推進

- 町民参加の必要性についての町民の理解
- 地域の自立に向けた意識の醸成
- 地域リーダーの育成
- 町民ニーズを的確に把握し町政に反映していく仕組みづくり

2 職員の人材育成の推進

- 人材育成方針に基づく人材の育成
- 鏡野町行財政改革実施計画に基づく適正な定員管理の実施
- 優秀な人材確保とメンター制度（先輩職員が新入職員をサポートする制度）の充実
- 人事評価制度と職員研修のマッチング

3 効率的な行財政運営の推進

- 自主財源の確保
- 普通交付税削減と起債償還を見据えた財政運営
- 財源の効率的・効果的な配分
- 公共施設白書・公共施設等総合管理計画の策定による統廃合等再配置の検討

出典：鏡野町「鏡野町第2次総合計画 概要版（2016年）」

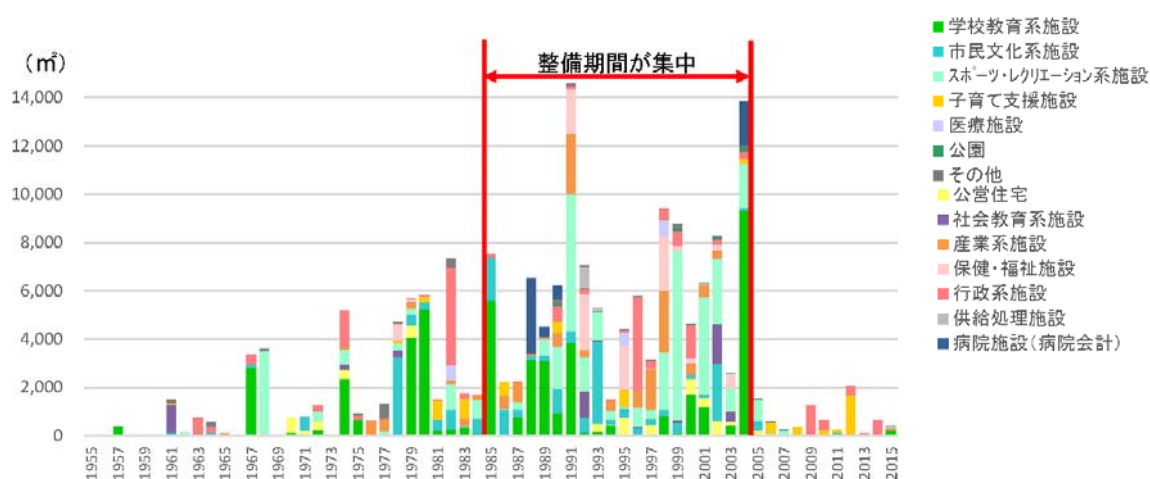
図 2-1 政策の柱と具体的な施策（抜粋）

(2) 鏡野町公共施設等総合管理計画

① 公共施設等に関する基本方針

「鏡野町公共施設等総合管理計画（2017年3月）」によれば、本町においては、1985年（昭和60年）から2003年（平成15年）にかけて延床面積の大きな公共施設が集中して整備されており、今後はこれらの建物の改修が必要となる時期を迎えつつあります。

こうした中、今後、現在保有する公共建築物をすべて現状の延床面積を維持して更新（大規模改修及び建替え）すると仮定した場合に必要な費用は、今後40年間で総額771.3億円（19.3億円/年）となる見通しとなっています。



出典：鏡野町「鏡野町公共施設等総合管理計画（2017年3月）」

図 2-2 建築年別の延床面積

これらの状況を踏まえ、「鏡野町公共施設等総合管理計画（2017年3月）」では、下記に示す計画の基本方針を掲げ、総合計画や財政計画との整合を図りながら、全庁を挙げて公共施設等の総合管理についての取り組みを推進することとしています。

《計画の基本方針》

住民の福祉の水準を維持しながら、人口動態等の社会状況に応じて施設の統合や廃止も視野に入れ、公共施設等を適正な状態で管理を行い、行政サービスを継続的に提供する

② 学校施設に関する方針

小中学校については、これまで建築後20年を目途に順次、大規模改修を実施しており、今後も長寿命化を行い適正な状態で維持していくこととしています。既に多くの小学校において複式学級が導入されている現状や、今後も年少人口の減少が見込まれていることを踏まえ、今後の在り方を検討する必要があるとし、空き教室の活用による他施設との複合化の可能性を検討することとしています。

学校給食調理場については、衛生管理の徹底を行い、安心・安全な学校給食の提供に努めますが、運営方法については民間活力の導入も含めて検討することとしています。

2-2. 人口の推移と見通し

(1)人口及び世帯数の推移

● 人口は緩やかな減少傾向が続き、核家族化・少子高齢化が進行

本町の総人口は、1980年（昭和55年）の17.5千人から緩やかな減少傾向が続いており、2015年（平成27年）には12.8千人となっています。また、世帯数は1980年（昭和55年）の5.0千世帯から大きな変化は見られず、2015年（平成27年）には4.7千世帯となっています。一世帯当たりの人員は1980年（昭和55年）の3.5人から、2015年（平成27年）には2.7人となっており、核家族化が進行していることがうかがえます。

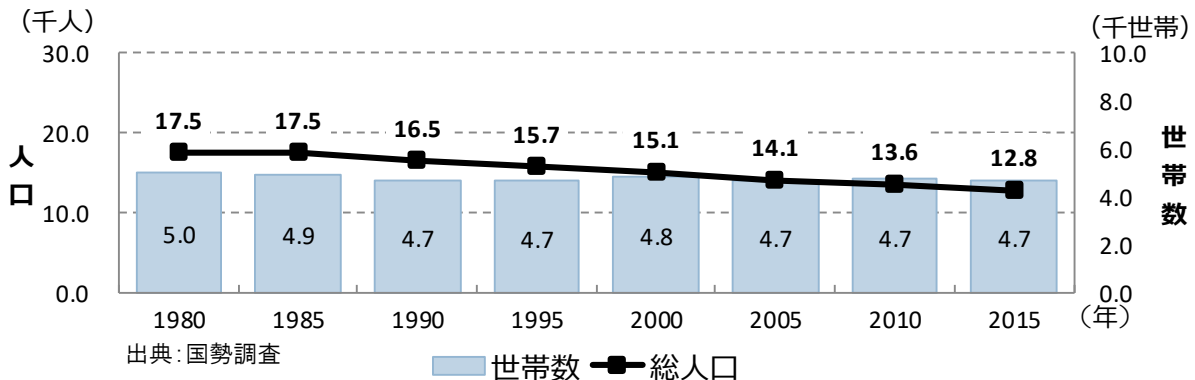


図 2-3 総人口・世帯数の推移

また、年齢別人口の推移をみると、15歳未満の年少人口は減少傾向が続いており、2015年（平成27年）における年齢別人口の構成比は、年少人口が12.2%、生産年齢人口が51.2%、老年人口が36.6%となっており、少子高齢化が進行しています。

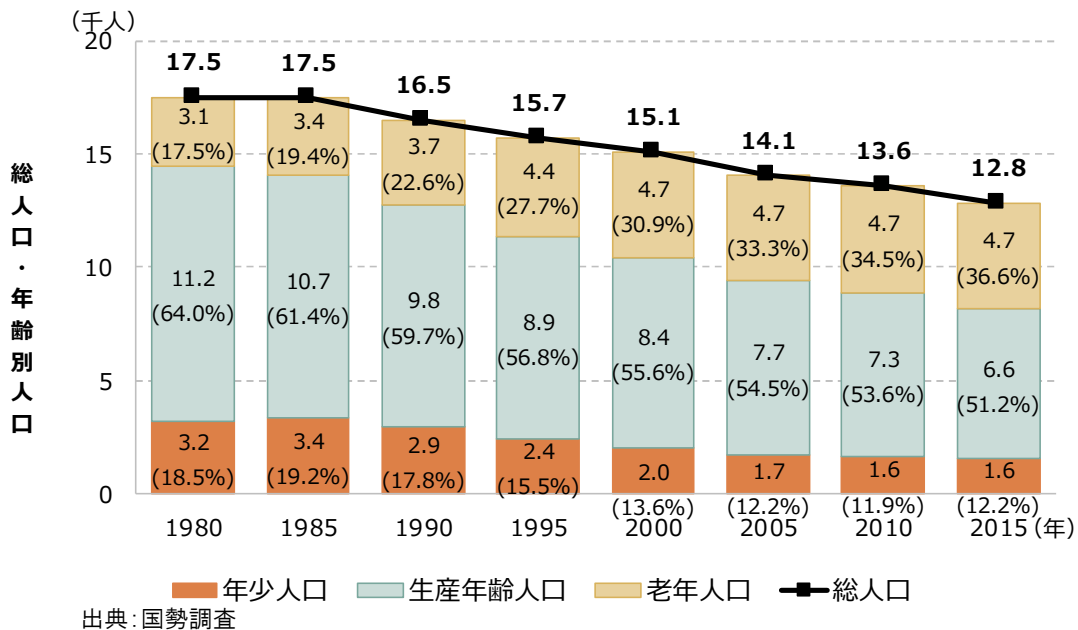


図 2-4 年齢別人口構成の推移

(2)人口の見通し

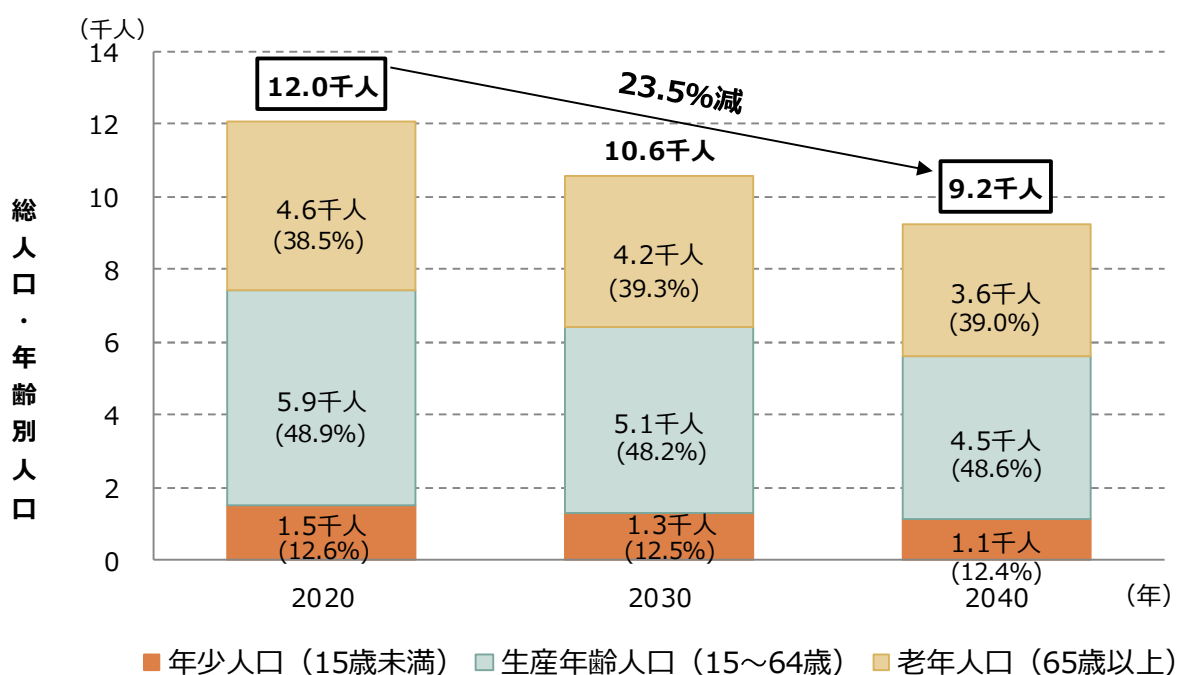
- 総人口は今後も減少傾向が続く見通し
- 2040年（令和22年）の総人口
 国立社会保障・人口問題研究所：9.2千人（2020年から23.5%の減少）
 鏡野町人口ビジョン：9.7千人（2020年から20.0%の減少）

① 国立社会保障・人口問題研究所による将来人口の見通し

国立保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口（2018年推計）」では、2040年（令和22年）における本町の将来人口を9.2千人と推計しています。

総人口の推移を見ると、2020年（令和2年）と比較して、2040年（令和22年）までに23.5%の減少となり、今後も減少傾向が続くことが見込まれています。

2040年（令和22年）の年齢別人口の構成比をみると、年少人口が12.4%、生産年齢人口が48.6%、老年人口が39.0%と推計されており、今後も少子高齢化の傾向が続く見通しとなっています。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（2018年推計）」

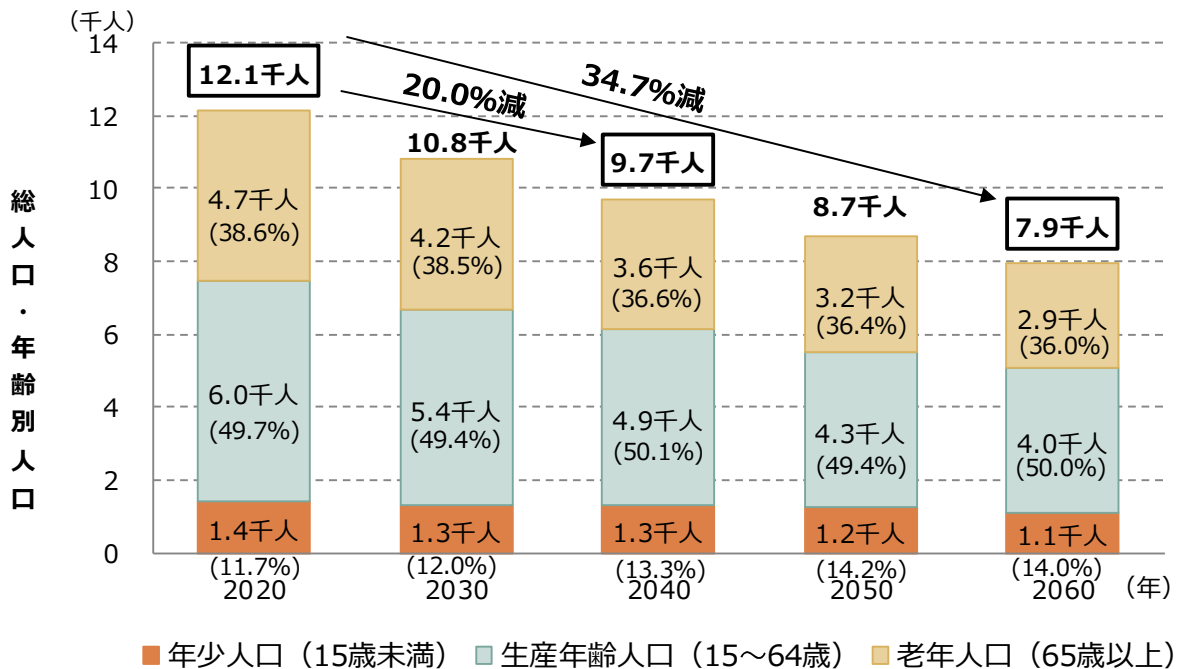
図 2-5 将来人口の見通し（国立社会保障・人口問題研究所）

② 鏡野町人口ビジョンによる将来人口の見通し

「鏡野町人口ビジョン（2015年8月）」においては、町の課題を踏まえ、雇用創出、結婚・出産・子育て、移住定住に係る施策を推進することにより、合計特殊出生率及び純移動率を維持することとし、2040年（令和22年）における本町の将来人口を9.7千人、2060年（令和42年）においては7.9千人と推計しています。

総人口の推移を見ると、2020年（令和2年）と比較して、2040年（令和22年）までに20.0%の減少となり、2060年（令和42年）までに34.7%減少する見込みとなっており、今後も人口の減少傾向が続くことが見込まれています。

2040年（令和22年）の年齢別人口の構成比をみると、年少人口は13.3%、生産年齢人口は50.1%、老年人口は36.6%と推計されています。



出典：鏡野町「鏡野町人口ビジョン（2015年8月）」

図 2-6 将来人口の見通し（鏡野町人口ビジョン）

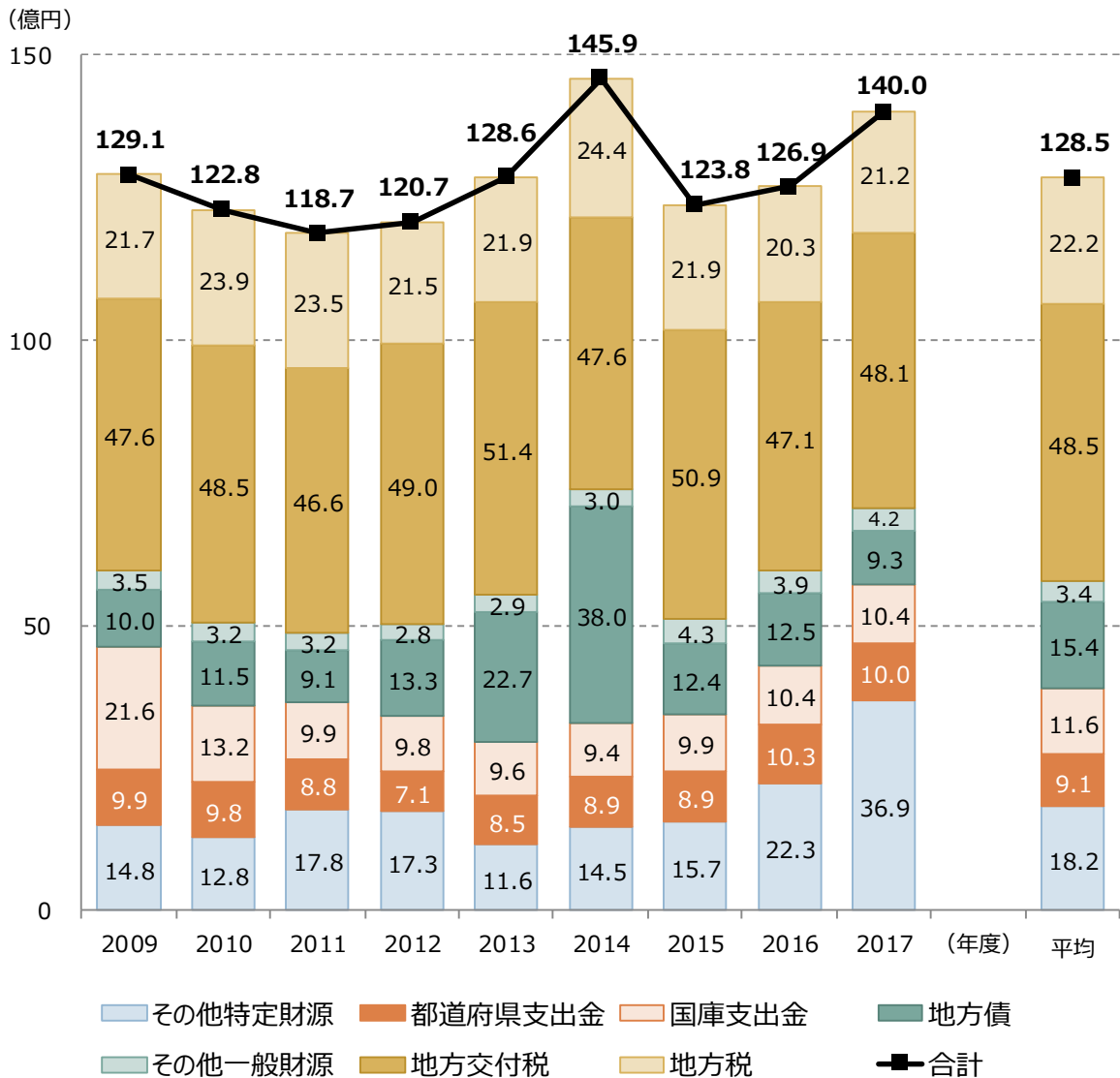
2-3. 財政の状況と見通し

(1) 財政の状況

① 歳入の推移

本町の2009年(平成21年)から2017年(平成29年)の普通会計における歳入の平均は128.5億円となっています。このうち、地方交付税の占める割合が最も多く48.5億円、次いで地方税が22.2億円、その他特定財源が18.2億円となっています。

地方税はほぼ横ばいで推移していますが、今後は人口の減少が見込まれていることから、将来的な地方税の減収も懸念されます。



出典：総務省「決算カード」

図 2-7 普通会計における歳入

② 歳出の推移

本町の2009年（平成21年）から2017年（平成29年）の普通会計における歳出の平均は118.9億円となっています。このうち、投資的経費の占める割合が最も多く26.6億円、次いで物件費が17.3億円、公債費が16.5億円となっています。

人件費は減少傾向が続いていますが、社会保障関係経費である扶助費については、わずかに増加傾向にあり、今後の高齢化の状況を勘案すると、このまま増加する或いは高い比率で推移することが推察されます。

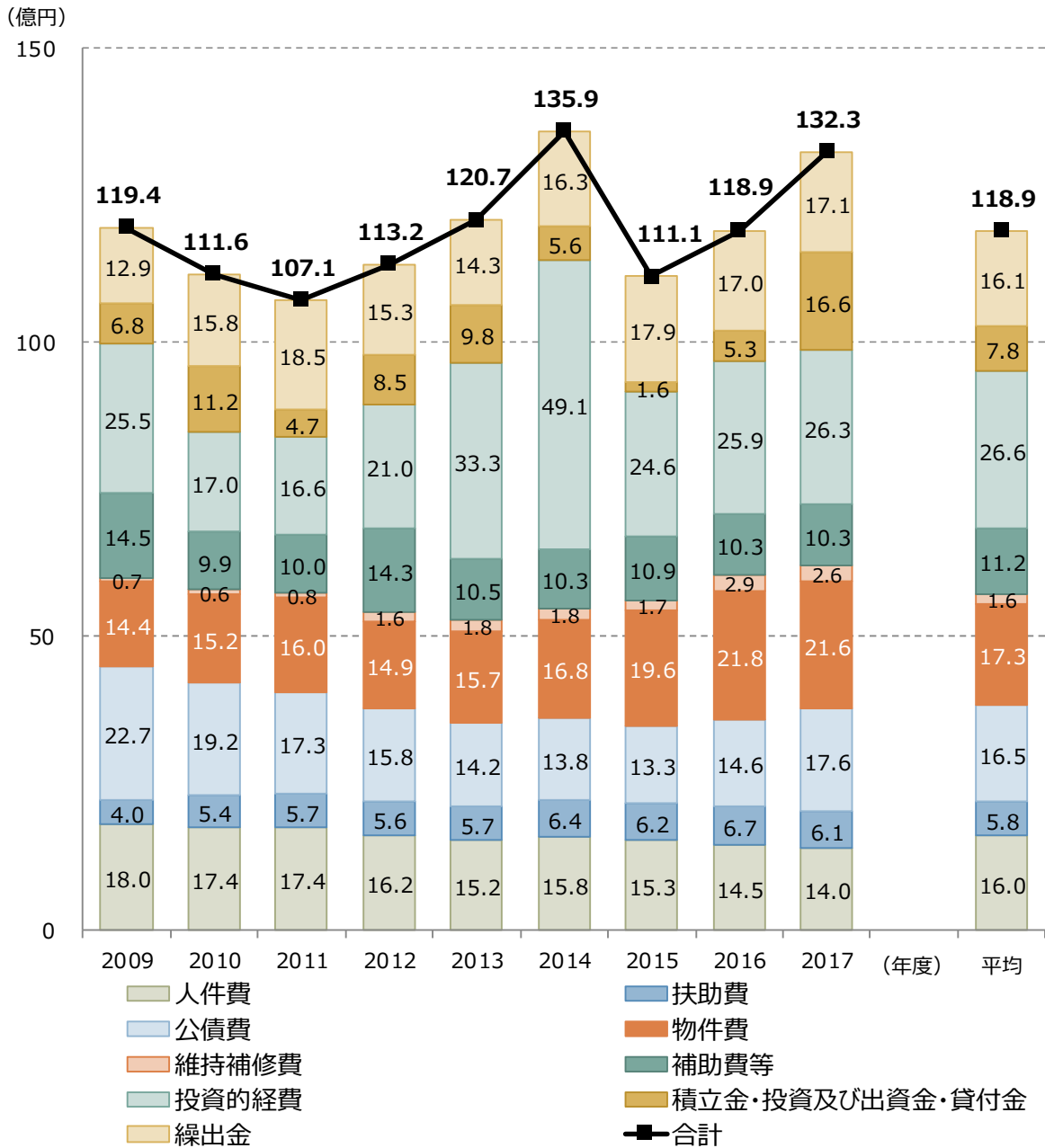


図 2-8 普通会計における歳出

③ 投資的経費の推移

「投資的経費」とは、公共施設を含む社会資本整備などの、その支出の効果が長期にわたる経費のことであり、地方自治体の予算科目では、普通建設事業費、災害復旧事業費、失業対策事業費にあたります。

本町の2009年度（平成21年度）から2017年度（平成29年度）までの投資的経費の平均は26.6億円であり、普通会計の歳出に占める割合は平均で22.0%となっています。

2014年度（平成26年度）の投資的経費が49.1億円と突出して多くなっているのは、鏡野地域情報通信基盤整備事業（PFI方式による光ファイバー敷設等）などを実施したことによるものです。

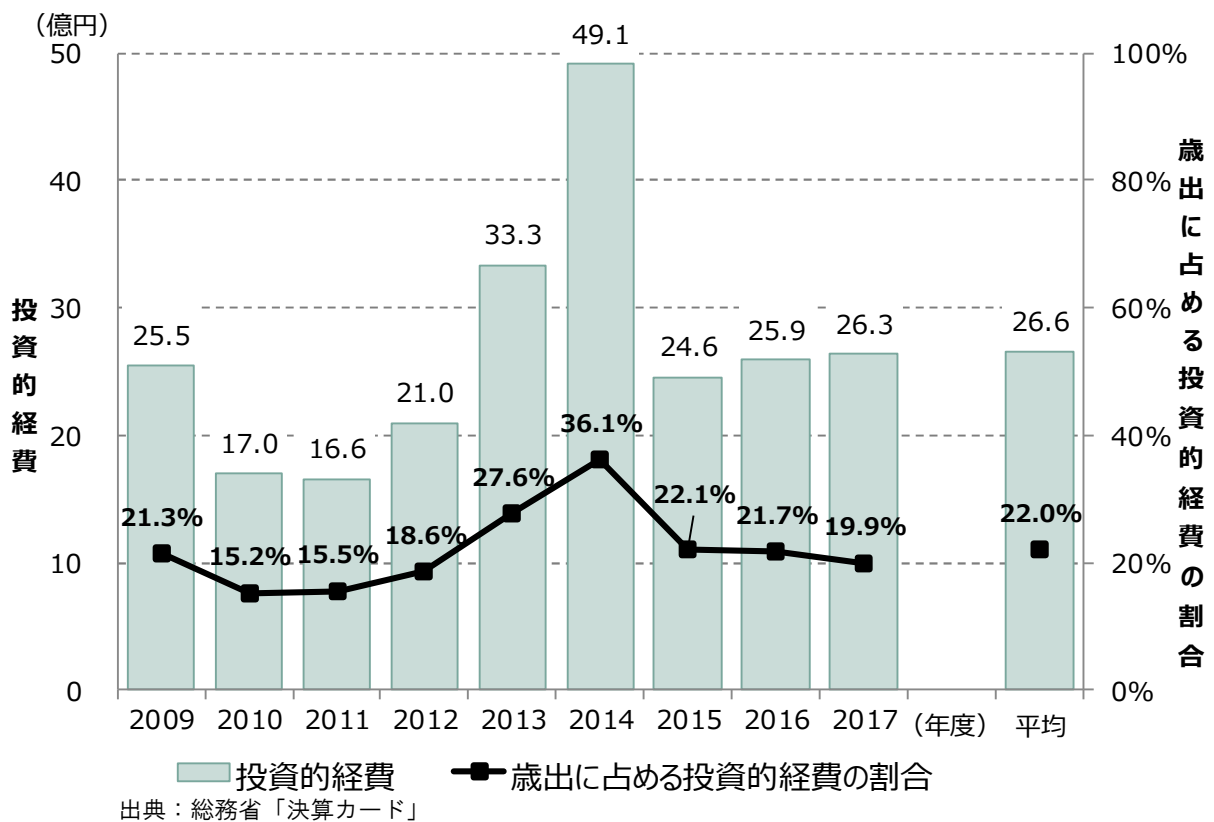
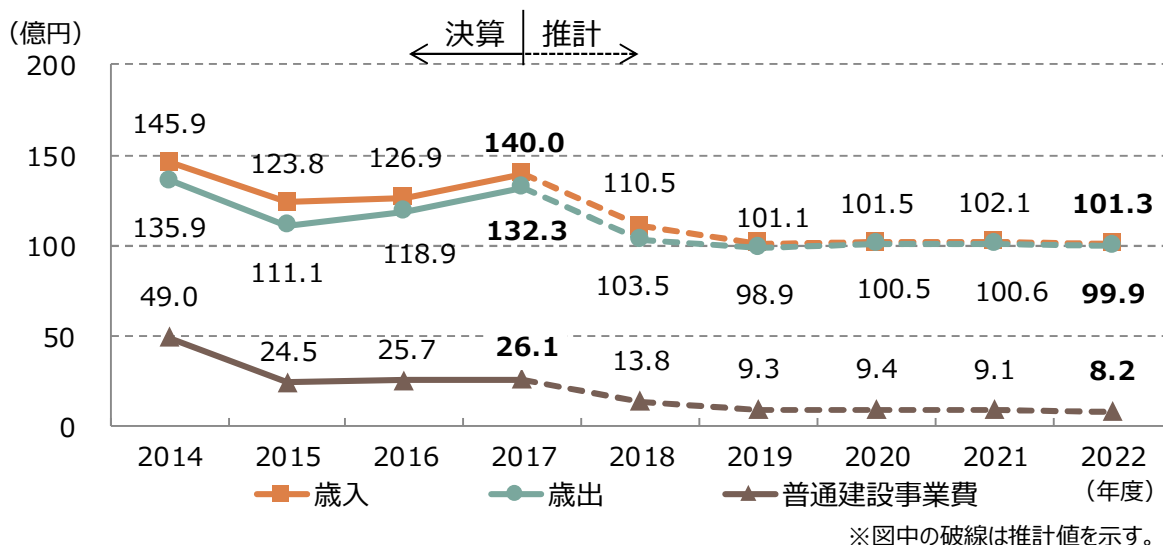


図 2-9 投資的経費の推移

(2) 財政の見通し

本町の「平成 29 年度財政運営適正化計画」によれば、歳入総額は、2017 年度（平成 29 年度）の 140.0 億円から、2022 年度（令和 4 年度）には 101.3 億円に減少する見込みとなっています。

また、歳出総額は 2017 年度（平成 29 年度）の 132.3 億円から、2022 年度（令和 4 年度）には 99.9 億円に減少する見通しです。このうち、普通建設事業費は、同期間で 26.1 億円から 8.2 億円に減少する見通しとなっています。



出典：2014～2019 年度（平成 24～29 年度）は総務省「決算カード」による。

2018～2022 年度（平成 30～令和 4 年度）は鏡野町「平成 29 年度財政運営適正化計画」による。

図 2-10 財政の見通し

将来的な人口減少や高齢化の進行が見込まれていることから、今後の大幅な税収が見込めない状況の中、学校施設を含む公共施設等の老朽化が進行しつつあるなかで、行政運営の効率化や財政負担の軽減に向けた取り組み等が必要となっています。

《行財政運営の簡素化及び効率化の基本方針》

1. 事務事業の再編・整理の見直し
2. 民間委託の推進
3. 簡素で効率的な組織・機構の見直し
4. 定員管理と給与の適正化
5. 人事管理・職員の人材育成・確保
6. 財政の適正かつ健全な運営
7. 地方公営企業の経営健全化
8. 公共施設総合管理計画に基づく施設の統廃合等再配置の検討

以上について「計画 (PLAN) → 実施 (Do) → 検証 (CHECK) → 見直し (ACTION)」の P C D A サイクル方式に基づき、従来からの慣行、行政施策、手法のとられずに抜本的に見直しを実施する。

出典：鏡野町「平成 29 年度財政運営適正化計画」

3. 学校施設の実態

3-1. 学校施設の運営状況・活用状況の実態

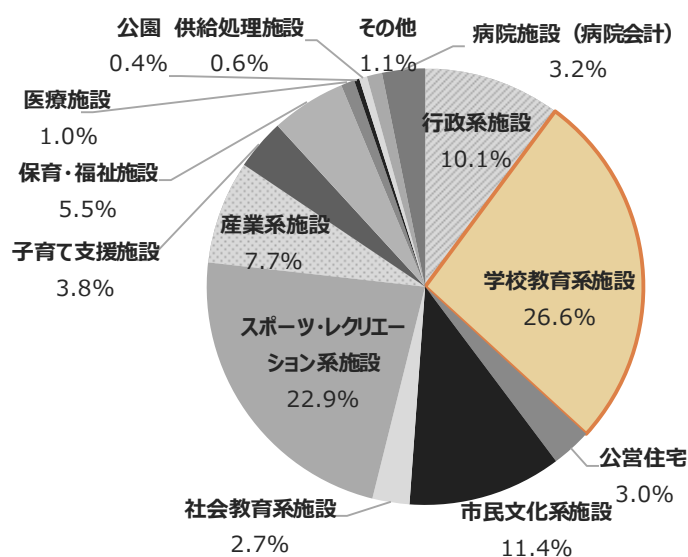
(1) 学校施設の保有量

- 本町の公共施設のうち、学校教育系施設は類型別の床面積の割合を最も多く占める

① 公共施設全体に占める学校教育系施設の保有量

本町が保有する公共施設は 336 施設であり、延床面積は 185,580 m²となっています。

このうち、小中学校と学校給食共同調理場を合わせた学校教育系施設は 49,456.9 m² (26.6%) であり、類型別の延床面積の割合を最も多く占めています。



分類	延床面積	割合
行政系施設	18,809.9m ²	10.1%
学校教育系施設	49,456.9m ²	26.6%
公営住宅	5,516.3m ²	3.0%
市民文化系施設	21,136.2m ²	11.4%
社会教育系施設	5,100.1m ²	2.7%
スポーツ・レクリエーション系施設	42,463.4m ²	22.9%
産業系施設	14,198.5m ²	7.7%
子育て支援施設	7,016.4m ²	3.8%
保育・福祉施設	10,243.4m ²	5.5%
医療施設	1,852.4m ²	1.0%
公園	726.8m ²	0.4%
供給処理施設	1,070.3m ²	0.6%
その他	2,131.3m ²	1.1%
病院施設 (病院会計)	5,858.2m ²	3.2%
合計	185,580m ²	

出典：鏡野町「鏡野町公共施設等総合管理計画」

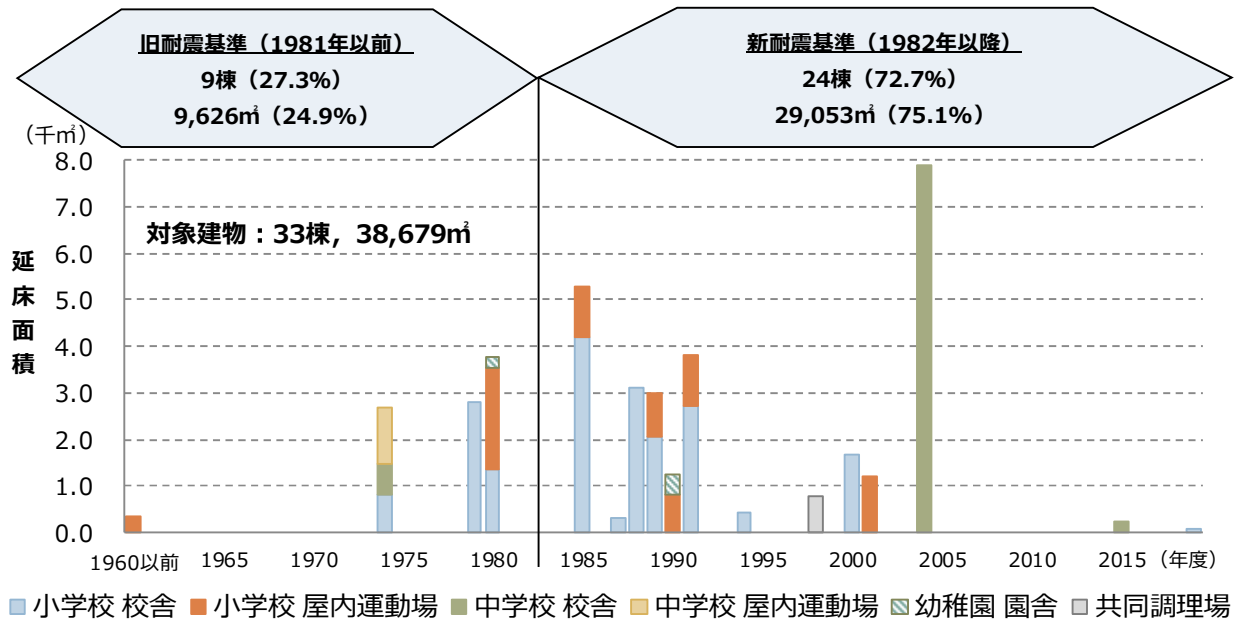
図 3-1 公共施設等の延床面積

② 学校施設の建築年別保有量

a. 学校施設の建築年別保有量

学校施設の延床面積を建築年度別にみると、1981年（昭和56年）以前に建築された旧耐震基準の建物は9棟（27.3%）で、その延床面積は9,626㎡（24.9%）となっています。

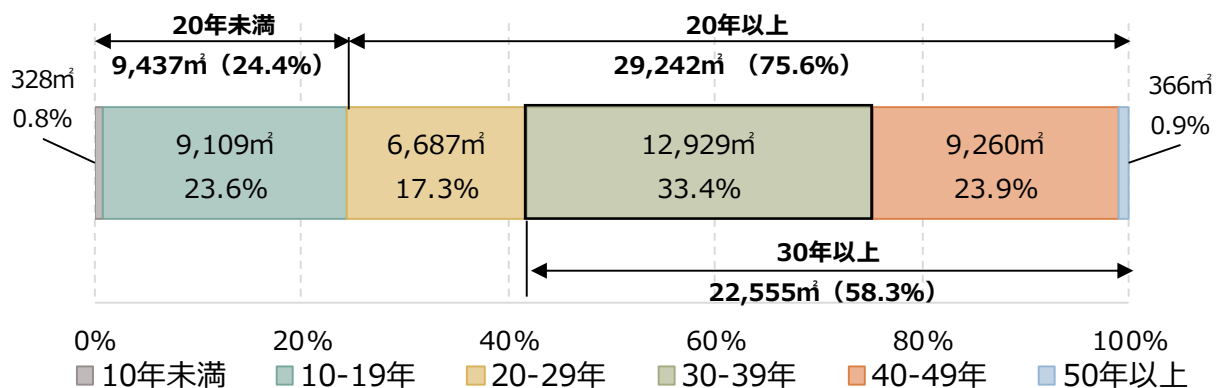
一方、1982年（昭和57年）以降に建築された新耐震基準を満たす建物は24棟（72.7%）で、延床面積は29,053㎡（75.1%）となっており、本町の学校施設では、新耐震基準を満たす建物が占める割合が多くなっています。



b. 経過年数別の保有量

学校施設を経過年数別にみると、経過年数30～39年の建物が12,929㎡（33.4%）と最も多く、次いで10～19年の建物が9,109㎡（23.6%）となっています。

一般に、屋上防水等の更新時期を迎えることから、大規模改修等による改修が必要となる経過年数20年以上の建物は29,242㎡（75.6%）であり、さらに老朽化が進行していると考えられる経過年数30年以上の建物は22,555㎡（58.3%）となっています。



C.耐震診断・耐震補強の実施状況

対象施設における、耐震診断及び耐震補強の実施状況は、以下のとおりです。

表 3-1 耐震診断及び耐震補強の実施状況

学校名	建物名	建築年 (年度)	耐震 基準	診断	補強	耐震補強 実施年度 (年度)	Is値	
							補強前	補強後
南小学校	管理教室棟	1985	新	-	-	-	-	-
	食堂棟	1985	新	-	-	-	-	-
	屋内運動場	1985	新	-	-	-	-	-
大野小学校	管理教室棟	1988	新	-	-	-	-	-
	食堂棟	1988	新	-	-	-	-	-
	屋内運動場	1989	新	-	-	-	-	-
鶴喜小学校	管理教室棟	1979	旧	済	済	2000	0.56	0.75
	屋内運動場	1980	旧	済	済	2010	0.10	0.83
香々美小学校	管理教室棟	1989	新	-	-	-	-	-
	食堂棟	1989	新	-	-	-	-	-
	屋内運動場	1990	新	-	-	-	-	-
香北小学校	教室棟	1974	旧	済	-	2008	0.86	-
	ランチルーム棟	2019	新	-	-	-	-	-
	屋内運動場	1957	旧	済	済	-	-	-
奥津小学校	管理棟	1991	新	-	-	-	-	-
	特別教室棟-1	1991	新	-	-	-	-	-
	特別教室棟-2	1991	新	-	-	-	-	-
	ランチルーム棟	1994	新	-	-	-	-	-
	屋内運動場	1991	新	-	-	-	-	-
上齋原小学校	小学校棟	1980	旧	済	済	2012	0.41	0.72
	特別教室棟	1987	新	-	-	-	-	-
	屋内運動場	1980	旧	済	-	-	0.84	-
富小学校	普通教室・特別教室棟	2000	新	-	-	-	-	-
	給食棟	2000	新	-	-	-	-	-
	屋内運動場	2001	新	-	-	-	-	-
鏡野中学校	屋内運動場	1974	旧	済	済	2004	0.36	0.93
	食堂棟	1974	旧	-	-	-	-	-
	校舎棟	2004	新	-	-	-	-	-
	講堂棟	2004	新	-	-	-	-	-
	増築棟	2015	新	-	-	-	-	-
郷幼稚園	保育棟	1990	新	-	-	-	-	-
上齋原幼稚園	保育棟	1980	旧	済	済	2008	0.41	0.72
鏡野町学校給食共同調理場	共同調理場	1998	新	-	-	-	-	-

凡例 旧：1981年（昭和56年）以前に建築された旧耐震基準の建物

新：1982年（昭和57年）以降に建築された新耐震基準の建物

d.大規模改修の実施状況

対象施設における、大規模改修の実施状況は、以下のとおりです。

一般に、建築から 20 年以上経過した建物は、屋上防水等の更新時期を迎えることから、大規模改修等による改修が必要となります。

対象施設のうち、建築から 20 年以上経過した建物は 26 棟であり、いずれの建物も大規模改修を実施しています。

表 3-2 大規模改修の実施状況

学校名	建物名	建築年 (年度)	経過 年数 (年)	大規模改修 実施年度 (年度)
南小学校	管理教室棟	1985	34	2008
	食堂棟	1985	34	2008
	屋内運動場	1985	34	2019
大野小学校	管理教室棟	1988	31	2011
	食堂棟	1988	31	2011
	屋内運動場	1989	30	2012
鶴喜小学校	管理教室棟	1979	40	2000
	屋内運動場	1980	39	2014
香々美小学校	管理教室棟	1989	30	2010
	食堂棟	1989	30	2010
	屋内運動場	1990	29	2011
香北小学校	教室棟	1974	45	2018
	ランチルーム棟	2019	0	—
	屋内運動場	1957	62	2004
奥津小学校	管理棟	1991	28	2013
	特別教室棟-1	1991	28	2013
	特別教室棟-2	1991	28	2013
	ランチルーム棟	1994	25	2013
	屋内運動場	1991	28	2015
上齋原小学校	小学校棟	1980	39	2008
	特別教室棟	1987	32	1999
	屋内運動場	1980	39	2011
富小学校	普通教室・特別教室棟	2000	19	—
	給食棟	2000	19	—
	屋内運動場	2001	18	—
鏡野中学校	屋内運動場	1974	45	2011
	食堂棟	1974	45	1998
	校舎棟	2004	15	—
	講堂棟	2004	15	—
	増築棟	2015	4	—
郷幼稚園	保育棟	1990	29	1999
上齋原幼稚園	保育棟	1980	39	1999
鏡野町学校給食共同調理場	共同調理場	1998	21	2019

凡例

	経過年数20年以上
--	-----------

(2) 児童生徒数及び学級数の変化

- 児童生徒数及び学級数は、ほぼ横ばいで推移する見通し

- 児童生徒数の推移

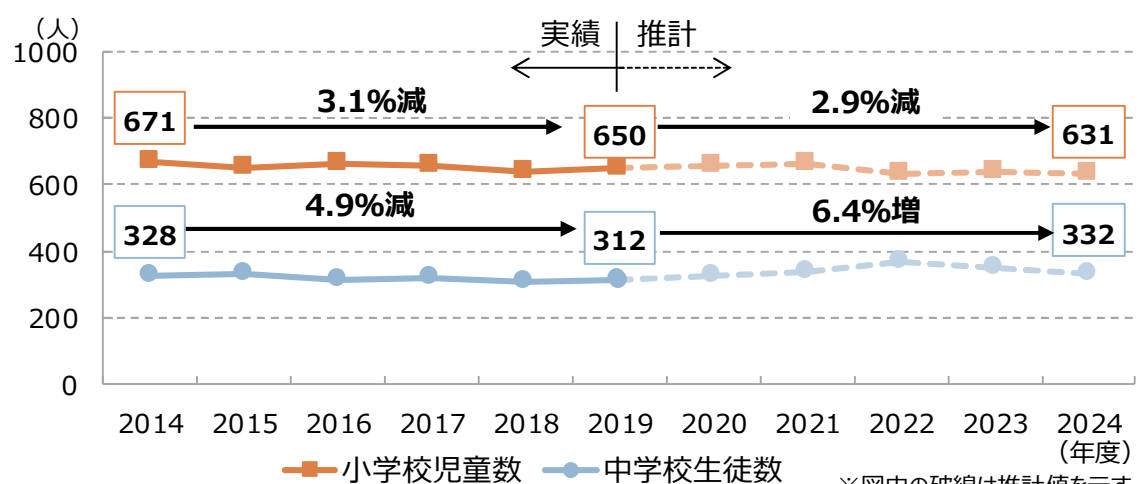
小学校の児童数：2019年度 650人（47学級）⇒ 2024年度 631人（49学級）

中学校の生徒数：2019年度 312人（12学級）⇒ 2024年度 332人（12学級）

① 児童生徒数の変化

2019年度（令和元年度）における本町の小学校の児童数は650人であり、2014年度（平成26年度）の671人から現在までに3.1%減少しています。2024年度（令和6年度）には631人（2.9%減）となり、児童数はほぼ横ばいで推移する見通しです。

また、中学校の生徒数は312人であり、2014年度（平成26年度）の328人から現在までに4.9%減少していますが、2024年度（令和6年度）には332人（6.4%増）とわずかに増加する見通しであり、小学校児童数と同様に、生徒数もほぼ横ばいで推移する見込みです。



出典：令和元年度学校別学級編制一覧

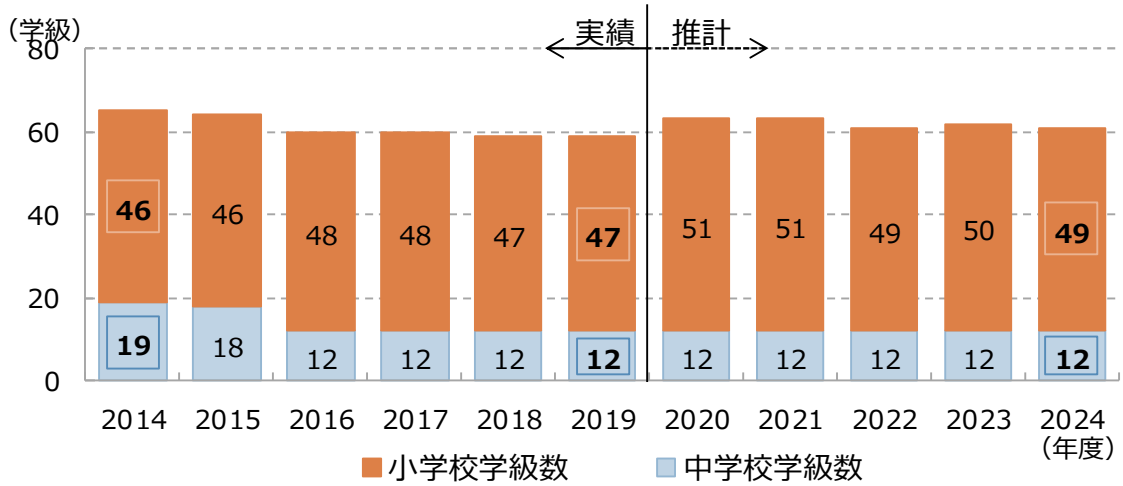
令和2年～6年度の入学児童生徒数及び学級数一覧

図 3-4 児童生徒数の推移と見通し

② 学級数の変化

2014年度（平成26年度）から2019年度（令和元年度）における小学校と中学校の学級数は、それぞれ46学級から47学級、19学級から12学級へと推移しています。

今後の学級数の推計によれば、2024年度（令和6年度）には小学校は49学級、中学校は12学級となる見通しで、小中学校の学級数はともに、ほぼ横ばいで推移する見込みです。



出典：令和元年度学校別学級編制一覧

令和2年～6年度の入学児童生徒数及び学級数一覧

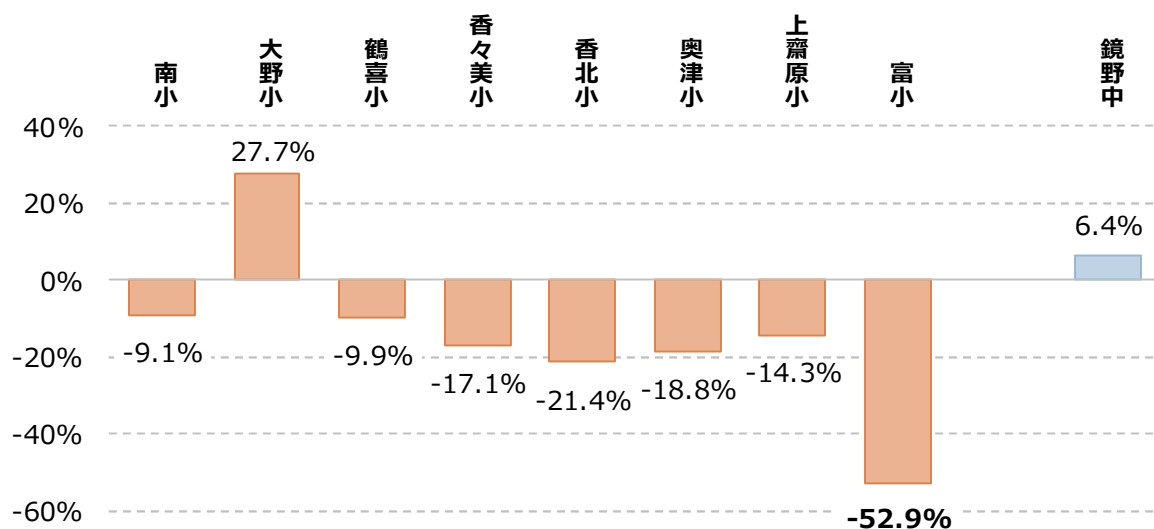
図 3-5 普通学級数の推移

(3) 学校施設の配置状況

- 児童生徒一人当たりの延床面積
2019年度（令和元年度）：平均 108.1 m²/人
2024年度（令和6年度）：平均 143.9 m²/人
- 多くの地域において、児童生徒数の減少が見込まれていることや、学校による児童生徒一人当たりの延床面積のばらつきが大きいため、施設規模の適正化等を図ることが必要

① 児童数及び生徒数の見通し

学校別に2019年度（令和元年度）から2024年度（令和6年度）における小学校及び中学校の児童生徒数の増減をみると、9校中7校で減少する見通しであり、減少率が最も高い富小学校で52.9%減少する見込みとなっています。



出典:令和元年度学校別学級編制一覧

令和2年～6年度の入学児童生徒数及び学級数一覧

図 3-6 学校別の児童生徒数の増減率

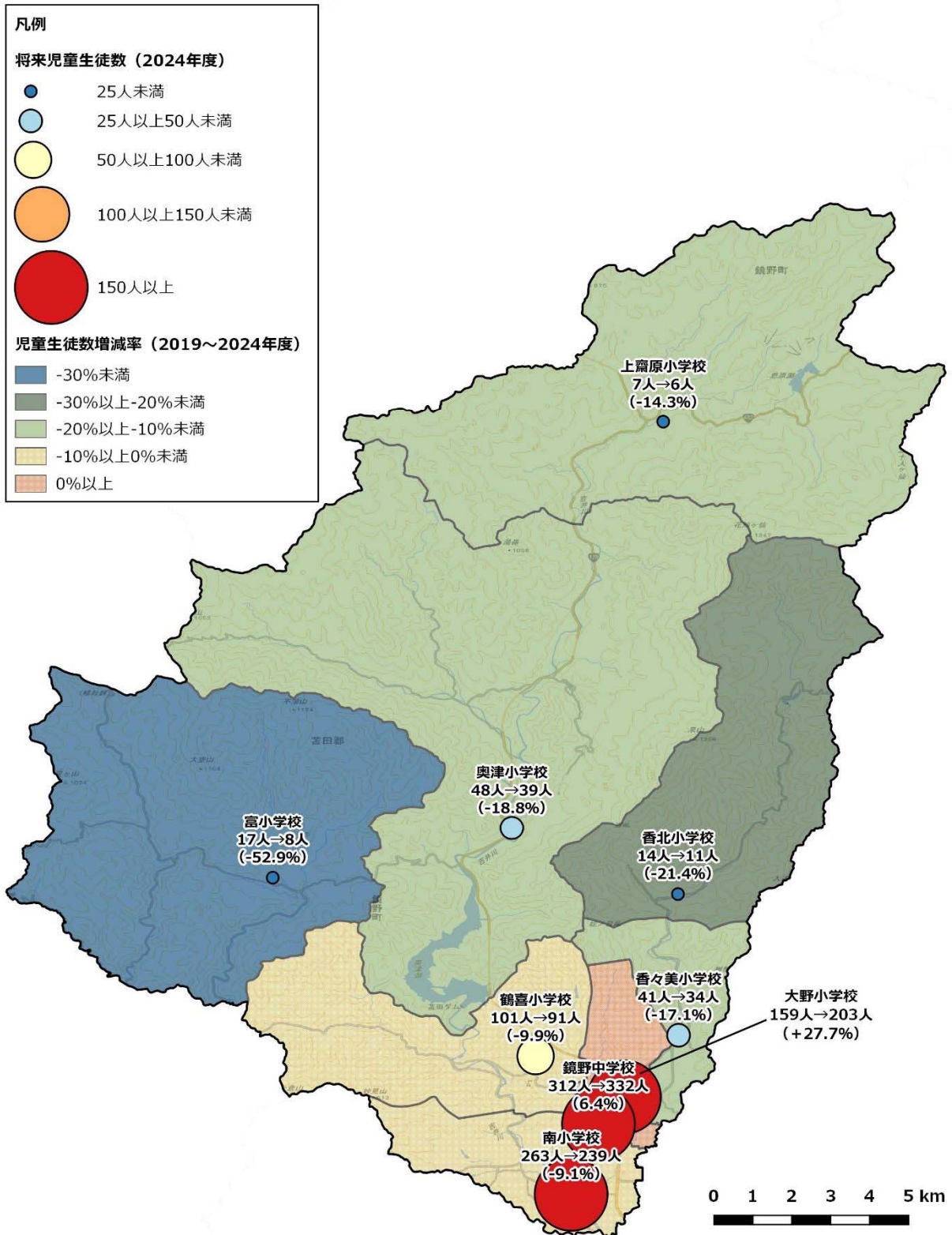


図 3-7 学校別の児童生徒数の増減（2019年度～2024年度）

② 児童生徒一人当たりの延床面積の現状と見通し

2019年度（令和元年度）における児童生徒一人当たりの延床面積は、平均で108.1㎡/人となっています。一人当たりの延床面積が最も大きい上齋原小学校で440.7㎡/人であり、最も小さい南小学校では20.1㎡/人となっています。

2024年度（令和6年度）において、現状の延床面積をそのまま維持した場合には、児童生徒一人当たりの延床面積は、平均で143.9㎡/人となる見込みとなっており、特に児童数の減少率の高い富小学校では361.0㎡/人となる見通しです。

将来的な年少人口の減少が見込まれており、多くの学校において児童数が減少する見通しとなっていることや、学校による児童生徒一人当たりの延床面積のばらつきが大きいことから、施設規模の適正化を図ることが必要です。

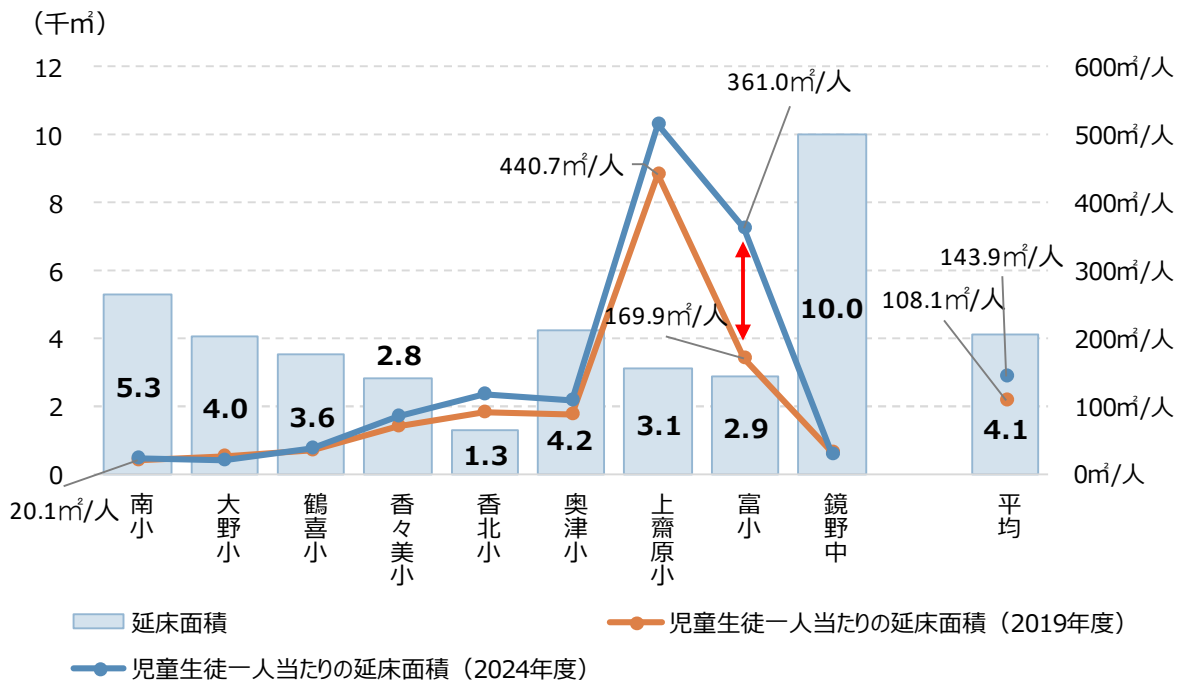


図 3-8 児童生徒一人当たりの延床面積

(4) 施設関連経費の推移

① 学校施設に係る投資的経費

本町の過去5年間における、学校施設に係る投資的経費は、平均で約2.6億円となっており、このうち校舎や屋内運動場等に係る工事請負費が最も大きな割合を占め、平均で約1.8億円となっています。

2015年度（平成27年度）に工事請負費が多くなっているのは、鏡野中学校「増築棟」の新設工事や、奥津小学校「屋内運動場」の大規模改修等を実施したことによるものです。

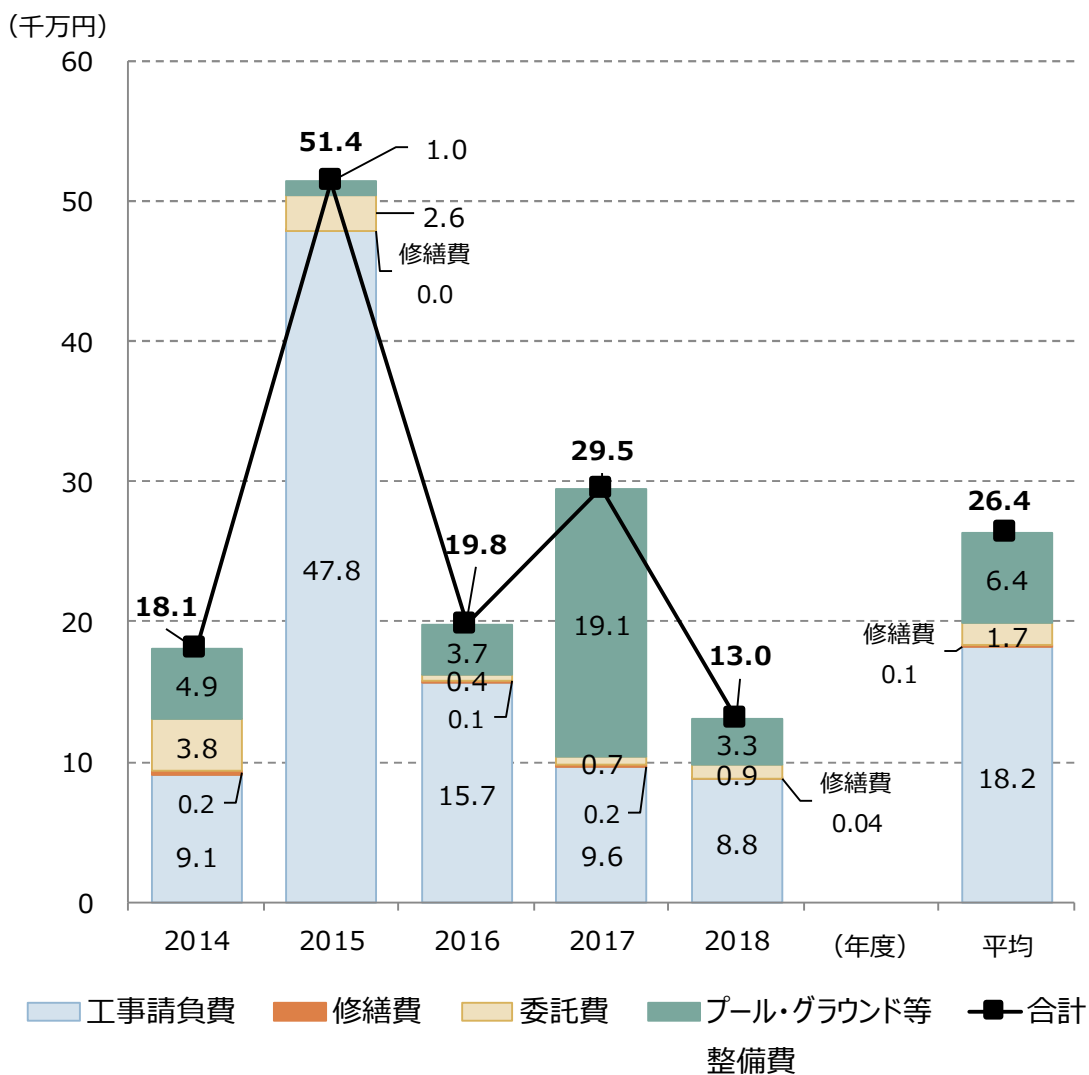


図 3-9 学校施設に係る投資的経費

② 学校施設に係る運営費

学校施設に係る運営費として、光熱水費、燃料費、通信運搬費、維持修繕費及び委託費について整理しました。

過去5年間の運営費をみると、平均で約7.9千万円となっており、このうち光熱水費が約2.8千万円と最も大きな割合を占めています。

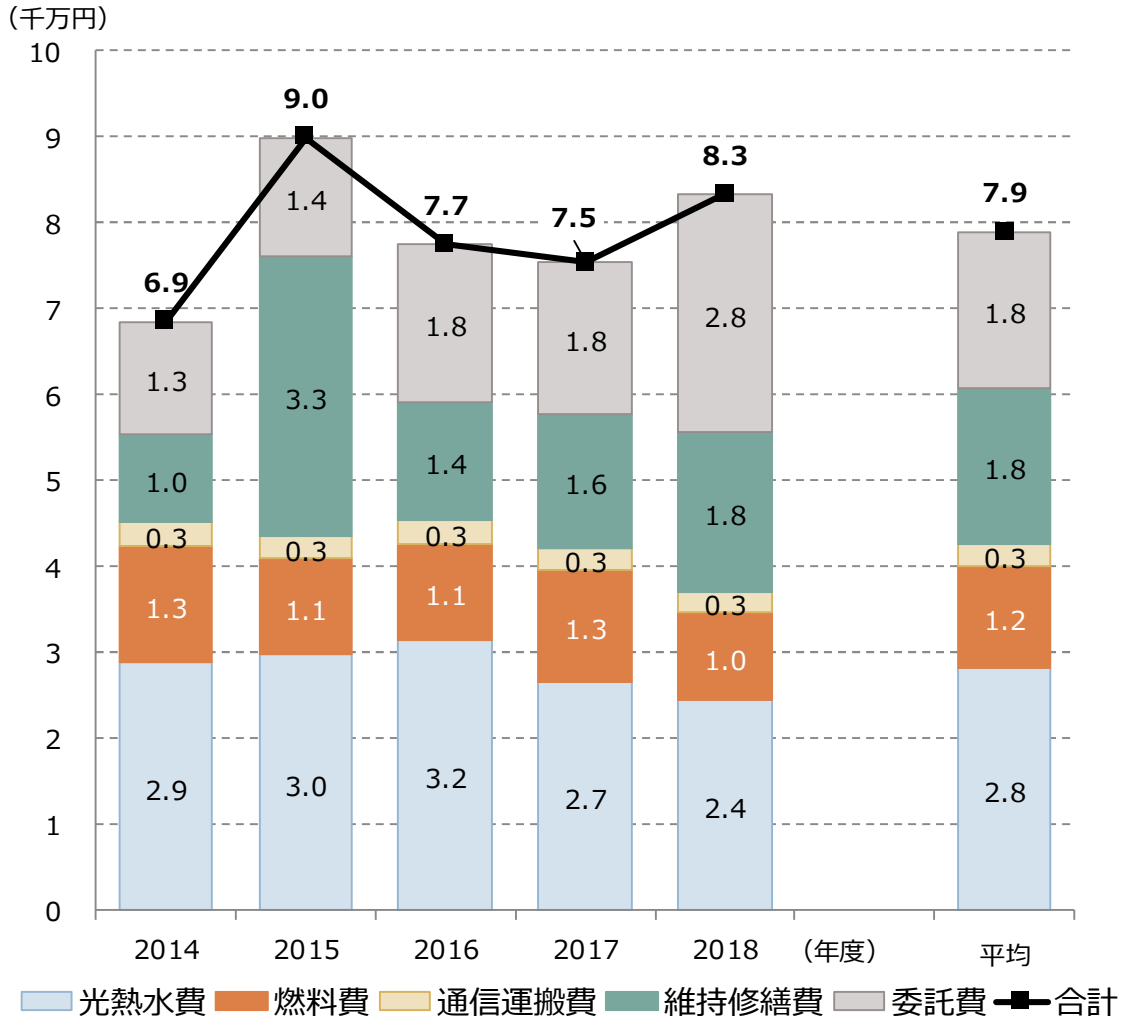


図 3-10 学校施設に係る運営費

(5) 学校施設の利用状況

過去4年間の学校施設（運動場、駐車場等を含む）の利用状況をみると、本町全体では、年間平均で延べ116団体が利用しています。

学校別にみると、鏡野中学校の利用団体数が最も多く、平均で33団体となっています。

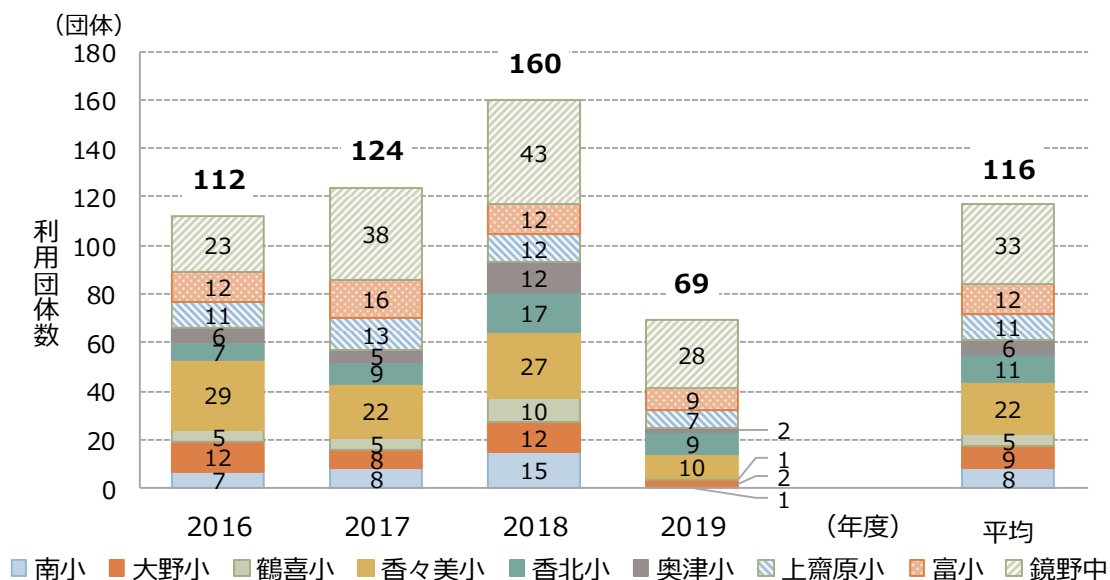


図 3-11 年度別の利用団体数

学校施設（運動場、駐車場等を含む）の主な利用目的をみると、スポーツ少年団や地域の団体によるスポーツの練習や大会、消防団による消防操法訓練のほか、地域の団体の会議や研修会、生涯学習の会場として利用されています。

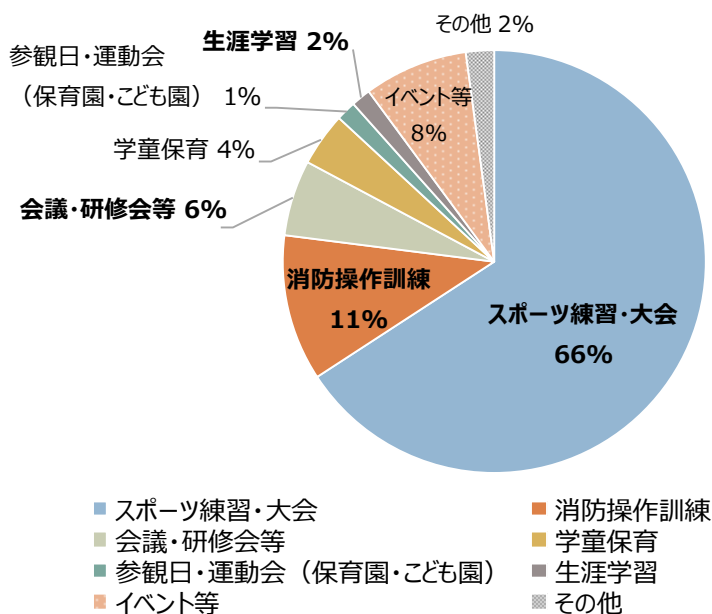


図 3-12 学校施設の主な利用目的

3-2. 学校施設の老朽化状況の実態

(1) 構造躯体の健全性評価

- 学校施設の耐震診断をもとに、構造躯体の健全性を評価
- 長寿命化に適する建物：33棟（すべての対象建物）

① 調査方法

長期間にわたって建物を使用していく場合、構造躯体の健全性を確保しなければ、必要な安全性を確保することができません。特に、長寿命化改修においては、建物ごとに構造躯体の健全性を評価し、改修に適した建物かどうかを判定する必要があります。

構造躯体の健全性は、専門知識を有する技術者による現地調査や材料試験を行ったうえで評価するものですが、効率的にこれを把握するために、すでに実施されている学校施設の耐震診断をもとに、構造躯体の健全性を評価しました。

調査の対象は、1981年（昭和56年）以前に建築された建物9棟と、1982年（昭和57年）以降に建築された新耐震基準を満たす建物24棟とします。

② 評価方法

1981年（昭和56年）以前に建築された旧耐震基準の鉄筋コンクリート造（以下、「RC造」という。）の建物については、耐震診断報告書における構造躯体データのうち、コンクリート圧縮強度を用いて評価しました。

一般に、コンクリートの圧縮強度が $13.5\text{N}/\text{mm}^2$ に満たない建物は、改修費用の面から長寿命化に適さないとされています。このため、1981年（昭和56年）以前に建築された建物については、コンクリート圧縮強度が $13.5\text{N}/\text{mm}^2$ 以上の建物を長寿命化に適していると評価します。

また、1981年（昭和56年）以前に建築された鉄骨造及び木造の建物については、建築後の経過年数が40年を超えるもので、腐食や劣化の著しいものについては長寿命化に適さない建物と評価します。

1982年（昭和57年）以降に建築された新耐震基準を満たす建物については、構造躯体の健全性が確保されていると判断し、長寿命化に適していると評価します。

表 3-3 評価基準

建築年	長寿命化に適する条件	
	RC造	鉄骨造・木造
1981年（昭和56年）以前	コンクリート圧縮強度 $13.5\text{N}/\text{mm}^2$ 以上	経過年数が40年を超えるもので、腐食や劣化の著しいものを除く
1982年（昭和57年）以降	すべての建物	

参考：文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」

③ 評価

耐震診断・耐震補強工事の実績から、対象とした33棟すべての建物について、長寿命化に適していることを確認しました。

表 3-4 構造躯体の健全性評価

学校名	建物名	建築年 (年度)	構造	耐震 基準	診断	補強	圧縮 強度	Is値		長寿命化 への適正
								補強前	補強後	
南小学校	管理教室棟	1985	RC	新	-	-	-	-	-	適
	食堂棟	1985	S	新	-	-	-	-	-	適
	屋内運動場	1985	S	新	-	-	-	-	-	適
大野小学校	管理教室棟	1988	RC	新	-	-	-	-	-	適
	食堂棟	1988	RC	新	-	-	-	-	-	適
	屋内運動場	1989	S	新	-	-	-	-	-	適
鶴喜小学校	管理教室棟	1979	RC	旧	済	済	30.0	0.56	0.75	適
	屋内運動場	1980	S	旧	済	済	25.8	0.10	0.83	適
香々美小学校	管理教室棟	1989	S	新	-	-	-	-	-	適
	食堂棟	1989	S	新	-	-	-	-	-	適
	屋内運動場	1990	S	新	-	-	-	-	-	適
香北小学校	教室棟	1974	RC	旧	済	-	23.0	0.86	-	適
	ランチルーム棟	2019	W	新	-	-	-	-	-	適
	屋内運動場	1957	W	旧	済	済	-	-	-	適
奥津小学校	管理棟	1991	RC	新	-	-	-	-	-	適
	特別教室棟-1	1991	RC	新	-	-	-	-	-	適
	特別教室棟-2	1991	RC	新	-	-	-	-	-	適
	ランチルーム棟	1994	RC	新	-	-	-	-	-	適
	屋内運動場	1991	S	新	-	-	-	-	-	適
上齋原小学校	小学校棟	1980	RC	旧	済	済	20.6	0.41	0.72	適
	特別教室棟	1987	RC	新	-	-	-	-	-	適
	屋内運動場	1980	S	旧	済	-	-	0.84	-	適
富小学校	普通教室・特別教室棟	2000	RC	新	-	-	-	-	-	適
	給食棟	2000	S	新	-	-	-	-	-	適
	屋内運動場	2001	S	新	-	-	-	-	-	適
鏡野中学校	屋内運動場	1974	S	旧	済	済	20.6	0.36	0.93	適
	食堂棟	1974	S	旧	-	-	-	-	-	適
	校舎棟	2004	RC	新	-	-	-	-	-	適
	講堂棟	2004	RC	新	-	-	-	-	-	適
	増築棟	2015	W	新	-	-	-	-	-	適
郷幼稚園	保育棟	1990	RC	新	-	-	-	-	-	適
上齋原幼稚園	保育棟	1980	RC	旧	済	済	20.6	0.41	0.72	適
鏡野町学校給食共同調理場	共同調理場	1998	S	新	-	-	-	-	-	適

凡例 RC：RC造、S：鉄骨造、W：木造

旧：1981年（昭和56年）以前に建築された旧耐震基準の建物

新：1982年（昭和57年）以降に建築された新耐震基準の建物

(2) 躯体以外の老朽化状況等の評価

① 調査方法

建物の性能や機能を維持していくうえで必要な構造躯体以外の部位（屋根・屋上、外部仕上げ、内部仕上げ）及び電気・機械設備の状況を把握するため、老朽化状況調査を行いました。

屋根・屋上、外部仕上げについては目視により調査を行い、内部仕上げ、電気・機械設備については、目視のみでは老朽化状況を確認できないため、設置及び更新後からの経過年数をもとに状況を把握するとともに、学校関係者へのヒアリングにより不具合の有無を調査します。

表 3-5 調査項目

部位	調査項目	調査方法
1 屋根・屋上	屋根・屋上	・目視調査
2 外部仕上げ	外壁	
	外部開口部 外部その他	
3 内部仕上げ	床・壁・天井 内部開口部	・設置・更新からの経過年数 ・ヒアリング調査
4 電気設備	受変電設備 防災設備	
5 機械設備	給水設備	
	給湯設備	
	排水設備	
	消火設備	
	衛生設備	
	空調換気設備 エレベーター	

また、老朽化状況の把握とあわせて、学校施設の社会的要求への対応状況を把握するため、下表の項目について学校関係者へのヒアリングにより調査を行いました。

表 3-6 社会的要求への対応状況 調査項目

調査項目		調査項目	
1 法令適合対応	アスベストの撤去・不使用	4 バリアフリー 対応	身障者用トイレ
	特定天井の撤去・改修		スロープ
2 ICT対応	校内LAN設備		5 環境対応
	校内無線LAN設備	車いす対応エレベーター	
	電子黒板	太陽光発電	
3 災害対応	代替電源設備	屋上・壁面緑化	
	蓄電システム	節水型便器	
	備蓄倉庫	高効率照明器具	
	災害対応調理設備	LED照明器具	
	通信設備	雨水・中水設備	
	冷暖房設備 入浴施設		

② 老朽化状況調査票

次ページに示す調査票を用いて、老朽化状況を把握しました。

通し番号	1			
学校番号	施設名	〇〇〇学校	調査年月	2019年(令和元年)7月
棟番号	建物名	〇〇〇〇棟	記入者	
主用途	建築年度	年度 ()	階数	階(地下 階)
構造種別	延床面積	m ²		

劣化状況評価

屋根屋上	外部仕上げ	内部仕上げ	電気設備	機械設備
A	A	A	A	A

A: 良好、B: 部分的に劣化、C: 広範囲に劣化、D: 早急な対応が必要

健全度
100.0
/100

1. 老朽化状況

部位	仕様	工事履歴		老朽化状況 (複数回答可)	箇所	特記事項	評価
		年度	工事内容				
屋根・屋上	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防水			1 <input type="checkbox"/> 降雨時に、頻繁に雨漏りがある			A
	<input type="checkbox"/> アスファルト露出防水			2 <input type="checkbox"/> 天井等に雨漏り痕がある			
	<input type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水			3 <input type="checkbox"/> 防水層に膨れ・破れ等がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板)			4 <input type="checkbox"/> 屋根葺材に錆・損傷がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類)			5 <input type="checkbox"/> 笠木・立上り等に損傷がある			
	<input type="checkbox"/> その他の屋根			6 <input type="checkbox"/> 樋やルーフトレに詰まりがある			
外壁	<input type="checkbox"/> 塗仕上げ			7 <input type="checkbox"/> 外壁から水漏れがある			A
	<input type="checkbox"/> タイル張り、石張り			8 <input type="checkbox"/> 塗装の剥がれがある			
	<input type="checkbox"/> 金属系パネル			9 <input type="checkbox"/> タイルや石の剥がれがある			
	<input type="checkbox"/> コンクリート系パネル(ALC等)			10 <input type="checkbox"/> 目地、シーリング材にひび割れがある			
	<input type="checkbox"/> その他の外壁			11 <input type="checkbox"/> 外壁に大きな亀裂がある			
				12 <input type="checkbox"/> 外壁で鉄筋が見えているところがある			
外部開口部	<input type="checkbox"/> アルミ製サッシ	0	0	13 <input type="checkbox"/> 窓・ドアの廻りで漏水がある			A
	<input type="checkbox"/> 鋼製サッシ			14 <input type="checkbox"/> 窓・ドアに錆・腐食・変形がある			
	<input type="checkbox"/> 断熱サッシ、省エネガラス			15 <input type="checkbox"/> 窓・ドアの開閉に支障がある			
外部その他	<input type="checkbox"/> バルコニー	0	0	16 <input type="checkbox"/> 手すり等に錆・腐食・変形がある			A
	<input type="checkbox"/> 外部廊下、ピロティ			17 <input type="checkbox"/> コンクリート等の落下の危険がある			
内部仕上げ	/			18 <input type="checkbox"/> 床仕上げ材にたわみ、損傷がある			A
				19 <input type="checkbox"/> 床仕上げ材に、歩行上の支障がある			
				20 <input type="checkbox"/> 壁仕上げ材にひび割れ、損傷がある			
				21 <input type="checkbox"/> 天井の落下の危険がある			
				22 <input type="checkbox"/> 窓・ドアに腐食・変形がある			
内部開口部	<input type="checkbox"/> アルミ製サッシ	0	0	23 <input type="checkbox"/> 窓・ドアの開閉に支障がある			A
	<input type="checkbox"/> 木製サッシ			24 <input type="checkbox"/> パーティションに腐食・変形がある			
	<input type="checkbox"/> パーティション(固定式)			25 <input type="checkbox"/> パーティションの動作に支障がある			
	<input type="checkbox"/> パーティション(可動式)						
電気設備	/			26 <input type="checkbox"/> 機器に異音がある			A
				27 <input type="checkbox"/> 分電盤のブレーカーが頻繁に落ちる			
				28 <input type="checkbox"/> 頻繁に機器が故障する			
防災設備	/	0	0	29 <input type="checkbox"/> 防火設備全体に変形、損傷、腐食がある			A
				30 <input type="checkbox"/> 火災報知機等に既存点検で指摘がある			
				31 <input type="checkbox"/> 頻繁に機器が故障する			

備考

--

部位	仕様	工事履歴		老朽化状況 (複数回答可)	箇所	特記事項	評価
		年度	工事内容				
給水設備	/			32 <input type="checkbox"/> ポンプからの異音・漏水がある			A
				33 <input type="checkbox"/> 水質・水量等に異常がある			
給湯設備	<input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 電気	0	0	34 <input type="checkbox"/> 頻繁に機器が故障する			A
				35 <input type="checkbox"/> 配管からの異音・異臭がある			
排水設備	/	0	0	36 <input type="checkbox"/> 頻繁に機器が故障する			A
				37 <input type="checkbox"/> ポンプ等に異音・漏水がある			
衛生設備	/	0	0	38 <input type="checkbox"/> 排水づまりがある			A
				39 <input type="checkbox"/> 頻繁に機器が故障する			
機械設備	換気設備	0	0	40 <input type="checkbox"/> 便器等に破損がある			A
				41 <input type="checkbox"/> 換気扇等が正常に機能しない			
				42 <input type="checkbox"/> 排煙設備が正常に機能しない			
				43 <input type="checkbox"/> 頻繁に機器が故障する			
空調換気設備	<input type="checkbox"/> 空調設備	0	0	44 <input type="checkbox"/> 熱源設備からの異音・異臭がある			A
				45 <input type="checkbox"/> エアコン運転時に異音、異常振動がある			
				46 <input type="checkbox"/> ダクトからの異音・異常振動がある			
				47 <input type="checkbox"/> 配管の保温材に剥がれ・濡れがある			
消火設備	/	0	0	48 <input type="checkbox"/> 頻繁に機器が故障する			A
				49 <input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある			
その他	<input type="checkbox"/> エレベーター	0	0	50 <input type="checkbox"/> 運転時に異音・騒音等がある			A
				51 <input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある			

2. 社会的要求への対応状況

対応	整備状況
法令適合対応	1 <input type="checkbox"/> アスベストの不使用/撤去
	2 <input type="checkbox"/> 特定天井の不使用/撤去/対策
ICT対応	3 <input type="checkbox"/> 校内LAN設備
	4 <input type="checkbox"/> 校内無線LAN設備
	5 <input type="checkbox"/> 電子黒板
	6 <input type="checkbox"/> その他ICT対応機器()
災害対応	7 <input type="checkbox"/> 代替電源設備(発電機等)
	8 <input type="checkbox"/> 蓄電システム
	9 <input type="checkbox"/> 備蓄倉庫
	10 <input type="checkbox"/> 災害対応調理設備
	11 <input type="checkbox"/> 災害用通信設備
	12 <input type="checkbox"/> 冷暖房設備
	13 <input type="checkbox"/> 入浴施設

対応	整備状況
バリアフリー対応	14 <input type="checkbox"/> 多目的トイレ
	15 <input type="checkbox"/> スロープ
	16 <input type="checkbox"/> 手すり(廊下等)
環境対応	17 <input type="checkbox"/> 車いす対応エレベーター
	18 <input type="checkbox"/> 太陽光発電
	19 <input type="checkbox"/> 屋上・壁面緑化
	20 <input type="checkbox"/> 節水型機器(水栓、便器等)
	21 <input type="checkbox"/> LED照明器具
トイレ設備	22 <input type="checkbox"/> 雨水・中水利用設備
	23 <input type="checkbox"/> 便器の洋式化(洋式便器が半数以上)
	24 <input type="checkbox"/> 床のドライ化
	25 <input type="checkbox"/> 温水洗浄機能

図 3-13 老朽化状況調査票

1. 老朽化状況について

※各設備の使用上の不具合の有無とその内容について、わかる範囲でお教えてください。

部位	不具合の有無/内容	不具合のある場所/室	備考
建物の外部	屋根・屋上	<input type="checkbox"/> 不具合あり <input type="checkbox"/> 不具合なし	
	内容	<input type="checkbox"/> 日常的な雨漏り <input type="checkbox"/> 屋根材、屋上防水層の損傷 <input type="checkbox"/> 天井等の雨漏り跡 <input type="checkbox"/> 樋の詰まり(排水不良) <input type="checkbox"/> その他()	
	外壁	<input type="checkbox"/> 不具合あり <input type="checkbox"/> 不具合なし	
	内容	<input type="checkbox"/> 外壁からの水漏れ <input type="checkbox"/> 大きな亀裂がある <input type="checkbox"/> 塗装、タイルのはがれ・ひび割れ <input type="checkbox"/> その他()	
建物の内部	外部開口部(窓、ドア等)	<input type="checkbox"/> 不具合あり <input type="checkbox"/> 不具合なし	
	内容	<input type="checkbox"/> 窓等からの水漏れ <input type="checkbox"/> 窓・ドアの開閉不良 <input type="checkbox"/> 窓わく等のさび、腐食、変形 <input type="checkbox"/> その他()	
	屋外階段バルコニー	<input type="checkbox"/> 不具合あり <input type="checkbox"/> 不具合なし	
	内容	<input type="checkbox"/> 屋外階段等の手すりのさび <input type="checkbox"/> コンクリートの落下の危険がある <input type="checkbox"/> その他()	
電気設備	床・壁・天井	<input type="checkbox"/> 不具合あり <input type="checkbox"/> 不具合なし	
	内容	<input type="checkbox"/> 床材に損傷がある <input type="checkbox"/> 天井の落下の危険がある <input type="checkbox"/> 壁に損傷(たわみ、ひび割れ等)がある <input type="checkbox"/> その他()	
	内部開口部(ドア等)	<input type="checkbox"/> 不具合あり <input type="checkbox"/> 不具合なし	
	内容	<input type="checkbox"/> ドアわく等の変形 <input type="checkbox"/> 窓・ドアの開閉不良 <input type="checkbox"/> パーティションの変形 <input type="checkbox"/> パーティションの開閉不良 <input type="checkbox"/> その他()	
機械設備	受変電設備	<input type="checkbox"/> 不具合あり <input type="checkbox"/> 不具合なし	
	内容	<input type="checkbox"/> 異音がある <input type="checkbox"/> 頻繁に機器が故障する <input type="checkbox"/> 分電盤のブレーカーが頻繁におちる <input type="checkbox"/> その他()	
	防災設備(防火扉、防火シャッター)	<input type="checkbox"/> 不具合あり <input type="checkbox"/> 不具合なし	
	内容	<input type="checkbox"/> 防火扉等の全体に損傷、変形がある <input type="checkbox"/> 頻繁に機器が故障する <input type="checkbox"/> その他()	
電気設備	給排水設備給湯設備	<input type="checkbox"/> 不具合あり <input type="checkbox"/> 不具合なし	
	内容	<input type="checkbox"/> ポンプからの異音・漏水がある <input type="checkbox"/> 水質・水量等に異常がある <input type="checkbox"/> 配管からの異音・異臭がある <input type="checkbox"/> 排水づまりがある <input type="checkbox"/> 頻繁に機器が故障する <input type="checkbox"/> その他()	
	衛生設備(便器等)	<input type="checkbox"/> 不具合あり <input type="checkbox"/> 不具合なし	
	内容	<input type="checkbox"/> 便器等に破損がある <input type="checkbox"/> その他()	
	空調設備(換気・空調)	<input type="checkbox"/> 不具合あり <input type="checkbox"/> 不具合なし	
	内容	<input type="checkbox"/> 換気扇等が正常に機能しない <input type="checkbox"/> エアコン運転時に異音、異常振動がある <input type="checkbox"/> 排煙設備が正常に機能しない <input type="checkbox"/> ダクトからの異音・異常振動がある <input type="checkbox"/> 熱源設備からの異音・異臭がある <input type="checkbox"/> 配管の保温材に割れ・濡れがある <input type="checkbox"/> 頻繁に機器が故障する <input type="checkbox"/> その他()	
電気設備	昇降設備(エレベーター等)	<input type="checkbox"/> 昇降設備あり <input type="checkbox"/> 昇降設備なし	
	内容	<input type="checkbox"/> 不具合あり <input type="checkbox"/> 不具合なし <input type="checkbox"/> 運転時に異音、騒音等がある <input type="checkbox"/> その他()	

2. 社会的要求への対応状況について

※ICT対応、災害対応、バリアフリー対応等の状況について、わかる範囲でお教えてください。

部位	対応/設備の有無	備考
ICT対応	<input type="checkbox"/> 校内LAN設備 <input type="checkbox"/> 電子黒板 <input type="checkbox"/> 校内無線LAN設備 <input type="checkbox"/> その他()	
災害対応	<input type="checkbox"/> 代替電源(発電機等) <input type="checkbox"/> 災害用通信設備 <input type="checkbox"/> 蓄電システム <input type="checkbox"/> 冷暖房設備 <input type="checkbox"/> 備蓄倉庫 <input type="checkbox"/> 入浴設備 <input type="checkbox"/> 災害対応調理設備 <input type="checkbox"/> その他()	
バリアフリー対応	<input type="checkbox"/> 多目的トイレ <input type="checkbox"/> 手すり(廊下等) <input type="checkbox"/> スロープ <input type="checkbox"/> 車いす対応エレベーター <input type="checkbox"/> その他()	
環境対応	<input type="checkbox"/> 太陽光発電 <input type="checkbox"/> LED照明器具 <input type="checkbox"/> 屋上・壁面緑化 <input type="checkbox"/> 雨水・中水利用設備 <input type="checkbox"/> 節水型機器(水栓、便器等) <input type="checkbox"/> その他()	
トイレ設備	<input type="checkbox"/> 洋式トイレの増設 <input type="checkbox"/> 床のドライ化 <input type="checkbox"/> 温水洗浄機能付き便座の導入 <input type="checkbox"/> その他()	

<参考>老朽化事象の例



画像出典:文部科学省「学校施設長寿命化計画の策定に係る解説書」、(一財)建築保全センター「施設管理者のための建築物の簡易な劣化判定ハンドブック」

調査は以上になります。ご協力ありがとうございました。

図 3-14 ヒアリング調査票

③ 評価方法

a. 屋根・屋上及び外部仕上げの評価基準

屋根・屋上及び外部仕上げの老朽化状況は、目視調査により、以下の基準にもとづいてA～Dの4段階で評価しました。

また、目視調査の結果を鑑み、現状のまま放置すると老朽化が進行する可能性がある場合は、評価を1段階下げる等の見直しを行います。

表 3-7 評価基準（屋根・屋上及び外部仕上げ）

評価	基準	評価点
A	概ね良好	100
B	部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）	75
C	随所に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）	40
D	早急に対応する必要がある （安全上、機能上、問題あり） （躯体の耐久性に影響を与えている） （設備が故障し施設運営に支障を与えている）等	10

良好
↓
老朽化

参考：文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」

b. 内部仕上げ及び電気・機械設備の評価基準

内部仕上げ及び電気・機械設備の老朽化状況は、全面的な改修が行われてからの経過年数により、以下の基準にもとづいてA～Dの4段階で評価しました。

また、学校関係者へのヒアリング調査により、設備の著しい不具合が指摘された場合は、その程度に応じて評価を下げる等の見直しを行います。

表 3-8 評価基準（内部仕上げ及び電気・機械設備）

評価	基準	評価点
A	改修からの経過年数 20年未満	100
B	改修からの経過年数 20年以上40年未満	75
C	改修からの経過年数 40年以上	40
D	経過年数に関わらず著しい老朽化事象がある	10

良好
↓
老朽化

参考：文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」

④ 健全度の算定方法

健全度とは、建物を屋根・屋上、外部仕上げ、内部仕上げ、電気設備、機械設備の5つの部位に区分し、その老朽化状況を100点満点で数値化した評価指標です。健全度は、その数値が小さいほど建物の老朽化が進んでいることを示しています。

健全度の算定においては、まず、評価基準にもとづき各部位の老朽化状況をA～Dの4段階で評価します。次に、評価に応じた評価点と部位のコスト配分を以下のように定め、健全度を算定します。なお、健全度の算定式、部位の評価点及びコスト配分は文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」によるものとします。

表 3-9 評価点

評価	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

表 3-10 部位別のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3
合計	60.0

表 3-11 健全度の算定式

$$(\text{健全度}) = \text{総和} (\text{部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分}) \div 60$$

出典：文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」

⑤ 建物別の老朽化状況

建物別の老朽化状況と健全度は、以下のとおりです。

健全度の平均は 90.1 点となっており、健全度が最も低い建物は、郷幼稚園の「保育棟」で 65 点となっています。

表 3-12 老朽化状況調査結果

学校名	建物名	経過年数(年)	大規模改修実施年	屋根屋上	外部仕上	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)
南小学校	管理教室棟	34	2008	A	B	A	A	A	93
	食堂棟	34	2008	B	B	A	A	A	91
	屋内運動場	34	2019	A	A	A	A	A	100
大野小学校	管理教室棟	31	2011	A	A	A	A	A	100
	食堂棟	31	2011	A	A	A	A	A	100
	屋内運動場	30	2012	A	A	A	A	A	100
鶴喜小学校	管理教室棟	40	2000	C	C	B	A	A	68
	屋内運動場	39	2014	A	B	A	A	B	90
香々美小学校	管理教室棟	30	2010	A	B	A	A	A	93
	食堂棟	30	2010	A	A	A	A	A	100
	屋内運動場	29	2011	A	A	A	A	A	100
香北小学校	教室棟	45	2018	A	A	A	A	A	100
	ランチルーム棟	0	—	A	A	A	A	A	100
	屋内運動場	62	2004	B	B	A	A	A	91
奥津小学校	管理棟	28	2013	B	B	A	A	A	91
	特別教室棟-1	28	2013	B	A	B	A	A	89
	特別教室棟-2	28	2013	A	A	B	A	A	91
	ランチルーム棟	25	2013	B	B	B	A	A	81
	屋内運動場	28	2015	A	B	A	A	A	93
上齋原小学校	小学校棟	39	2008	B	B	C	A	A	68
	特別教室棟	32	1999	B	B	B	B	B	75
	屋内運動場	39	2011	A	A	B	A	A	91
富小学校	普通教室・特別教室棟	19	—	B	C	A	A	A	81
	給食棟	19	—	B	B	A	A	A	91
	屋内運動場	18	—	B	B	A	A	A	91
鏡野中学校	屋内運動場	45	2011	A	A	A	A	A	100
	食堂棟	45	1998	B	B	B	B	B	75
	校舎棟	15	—	A	B	A	A	A	93
	講堂棟	15	—	A	A	A	A	A	100
	増築棟	4	—	A	A	A	A	A	100
郷幼稚園	保育棟	29	1999	B	C	B	B	B	65
上齋原幼稚園	保育棟	39	1999	B	B	B	B	B	75
鏡野町学校給食共同調理場	共同調理場	21	2019	A	A	A	A	A	100
平均									90.1
凡例		A							
		B							
		C							
		D							

⑥ 部位別の老朽化状況

部位別の老朽化状況をみると、いずれの部位も、概ね良好な状態である評価Aの建物が占める割合が大きくなっています。

一方、「外部仕上げ」においては、評価Aの建物の割合が比較的小さく、広範囲に老朽化事象がみられる評価Cの建物が比較的多くなっています。

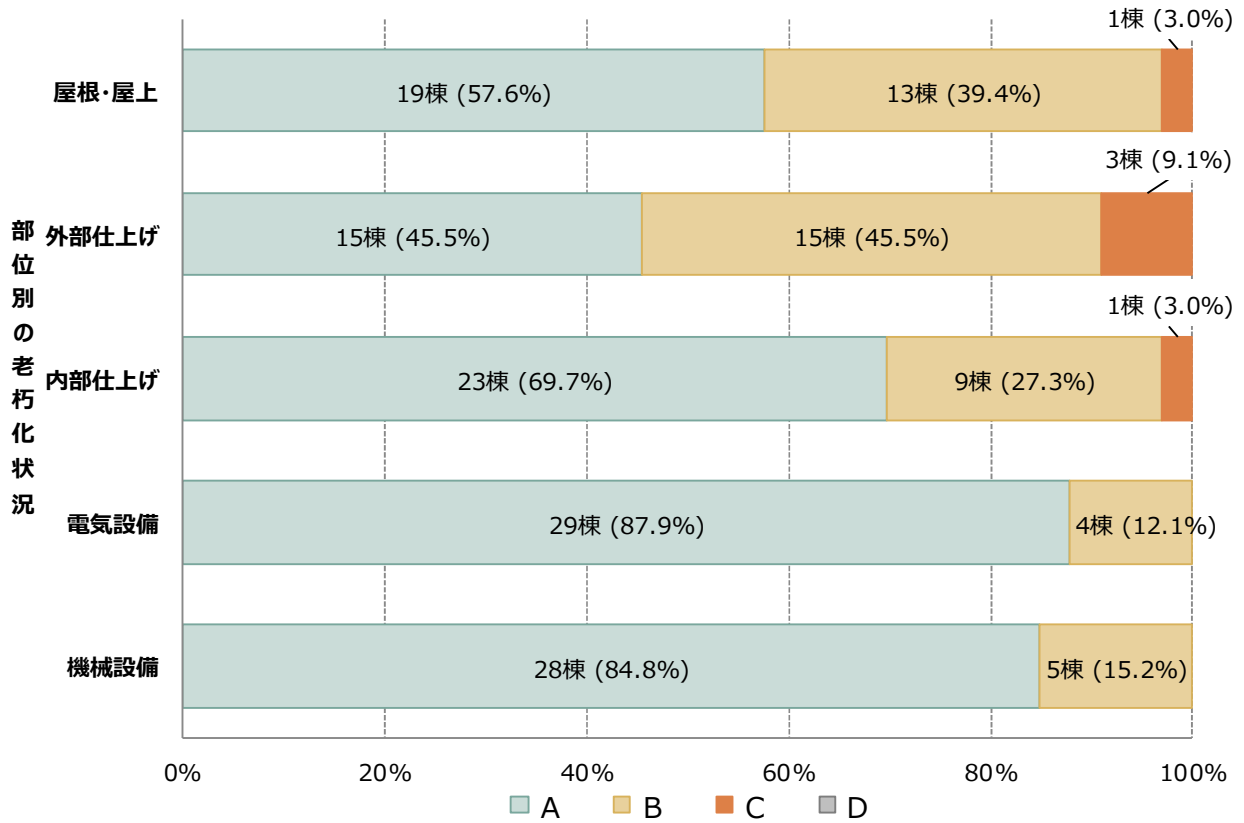


図 3-15 部位別の老朽化状況

⑦ 経過年数別の老朽化状況

目視により調査を実施した、屋根・屋上及び外部仕上げの老朽化状況について、経過年数別に整理します。

a. 屋根・屋上

屋根・屋上について、広範囲に老朽化事象がみられる評価Cの建物は、経過年数40年以上の建物で1棟となっており、雨漏り跡が随所にみられました。

また、評価Bの建物においても、部分的に雨漏り跡や雨樋の排水不良等がみられました。

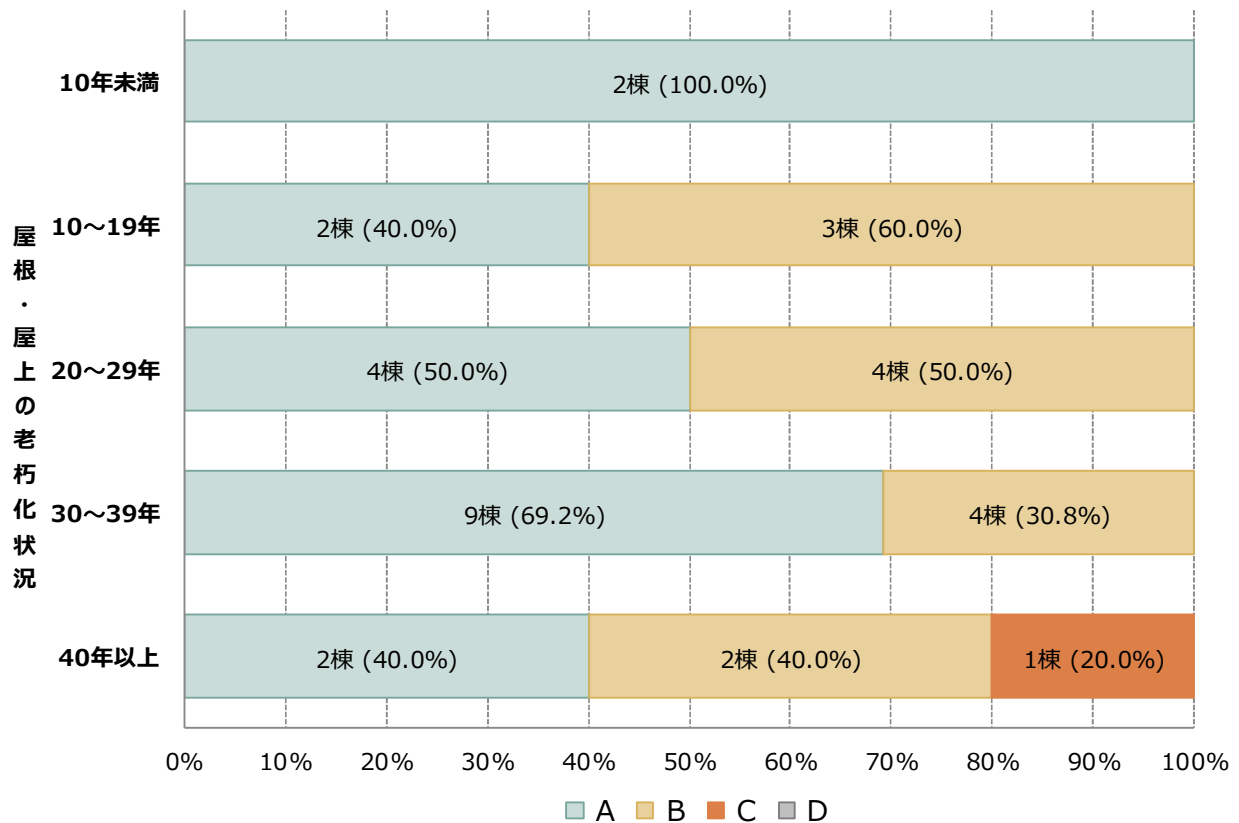





図 3-16 屋根・屋上の老朽化状況（経過年数別）

表 3-13 屋根・屋上の老朽化状況

A 評価 (19 棟)	B 評価 (13 棟)
 <p>大野小学校「管理教室棟」(経過年数 31 年) 良好</p>	 <p>南小学校「食堂棟」(経過年数 34 年) 部分的に雨漏り跡</p>
C 評価 (1 棟)	D 評価 (0 棟)
 <p>鶴喜小学校「管理教室棟」(経過年数 40 年) 随所 (5 箇所以上) に雨漏り跡</p>	<p>—</p>

b.外部仕上げ

外部仕上げについて、広範囲に老朽化事象がみられる評価Cの建物は、経過年数 10～19年の建物、20～29年の建物、40年以上の建物でいずれも1棟となっています。

評価Cの建物においては、外壁のはがれやひび割れ、ひび割れに伴う外壁からの漏水等が随所にみられました。

また、評価Bの建物においても、部分的に外壁のはがれやタイルのひび割れ、外部開口部からの雨漏り等がみられました。

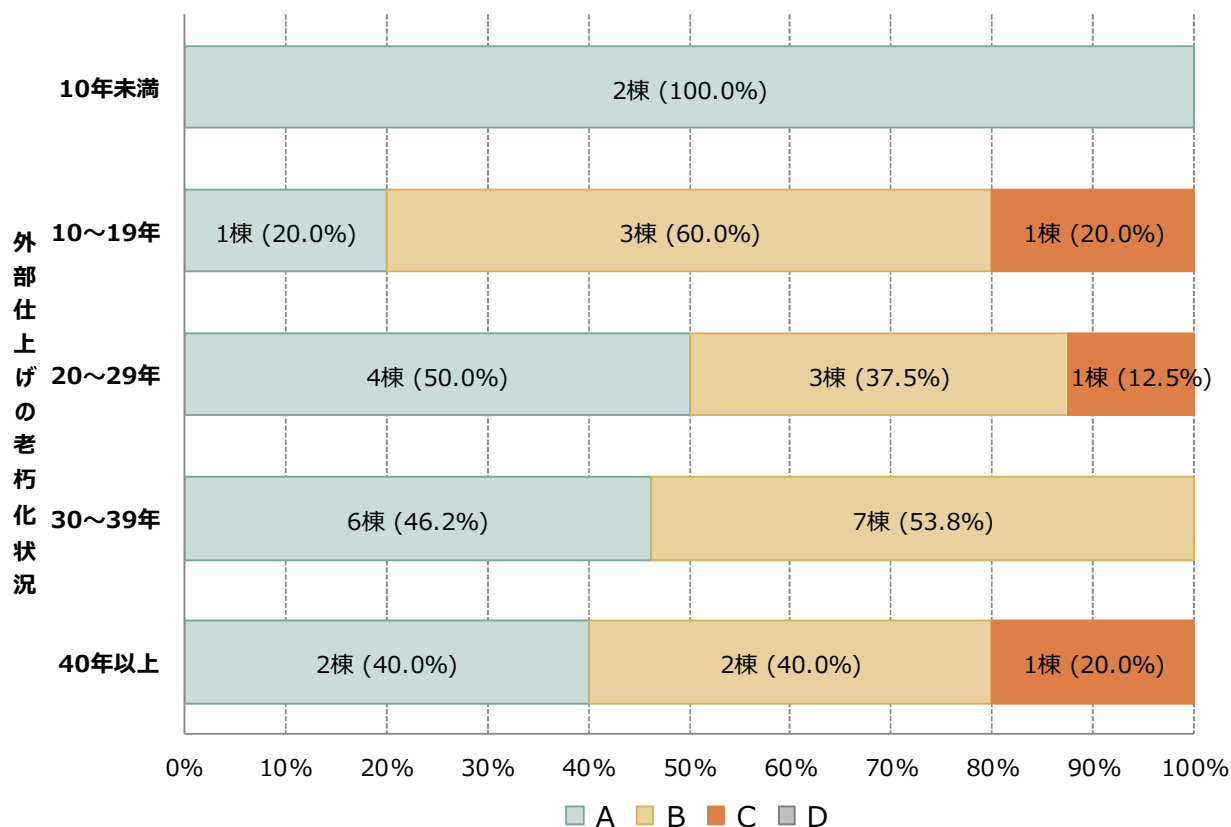


図 3-17 外部仕上げの老朽化状況（経過年数別）

表 3-14 外部仕上げの老朽化状況

A 評価 (15 棟)	B 評価 (15 棟)
 <p data-bbox="231 790 727 860">香北小学校「教室棟」(経過年数 45 年) 良好</p>	 <p data-bbox="815 790 1385 860">香々美小学校「管理教室棟」(経過年数 30 年) 部分的に外壁のはがれ・開口部からの雨漏り</p>
C 評価 (3 棟)	
 <p data-bbox="260 1395 703 1464">郷幼稚園「保育棟」(経過年数 29 年) 随所に外壁のひび割れ・はがれ</p>	 <p data-bbox="839 1395 1362 1464">鶴喜小学校「管理教室棟」(経過年数 40 年) 随所に外壁のひび割れからの漏水</p>

3-3. 今後の維持・更新コストシミュレーション（従来型）

- 今後 40 年間にかかるコスト（従来型）
合計：173.3 億円 年間平均：4.3 億円（過去平均比の約 1.6 倍）
- 一時的なコストの集中が見込まれることから、トータルコストの縮減・コストの平準化が必要

(1) 試算条件

これまで本町では、建築後の経過年数 20 年を目途に、大規模改修を実施してきました。今後も長寿命化改修を行わず、現状と同じ延床面積を維持したまま、学校施設の改修及び建替えを続けた場合（以下、「従来型」という。）にかかるコストを試算しました。試算の条件は、以下のとおりとします。

表 3-15 試算条件

- 試算の期間は、2020年度（令和2年度）から2059年度（令和41年度）の40年間
- 建替え及び大規模改修の周期は、建替えを60年、大規模改修を20年と設定
- 2019年度（令和元年度）時点ですでに建替え又は改修の周期を経過している建物の建替・改修は、今後10年以内に実施
- 2019年度（令和元年度）時点で、1回目の大規模改修を完了している建物は、前回の改修から20年後に大規模改修を実施
- 建替えの前後10年間に予定される大規模改修は実施しない
- 建替えにおいては、既存の建物と同じ面積で建替え
- 単価は、「鏡野町公共施設等総合管理計画」にもとづき以下のように設定

工事種別	単価	周期
建替え	33.0 万円/㎡	60 年
大規模改修	16.5 万円/㎡	20 年

- 本町における過去 5 年間の実績を踏まえ、工事費に対する設計及び工事監理に係る費用の割合を9.1%と設定し、改修実施の 1 年前に設計等に係る費用（委託費）を計上

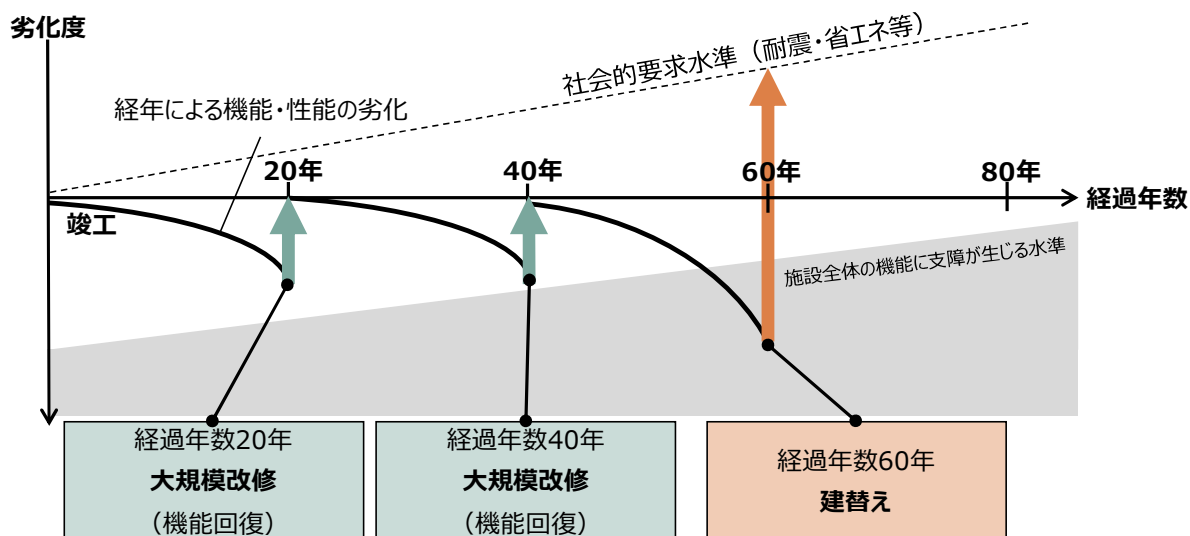


図 3-18 従来型の建替え及び改修のイメージ

(2) 今後の建替え・大規模改修にかかるコストの見通し

今後も従来と同様に建替え及び改修を続けた場合にかかるコストは、今後40年間で173.3億円となり、年間では平均で4.3億円となる見通しです。これは、過去5年間の学校施設に係る投資的経費の平均2.6億円と比較すると、約1.6倍にあたります。

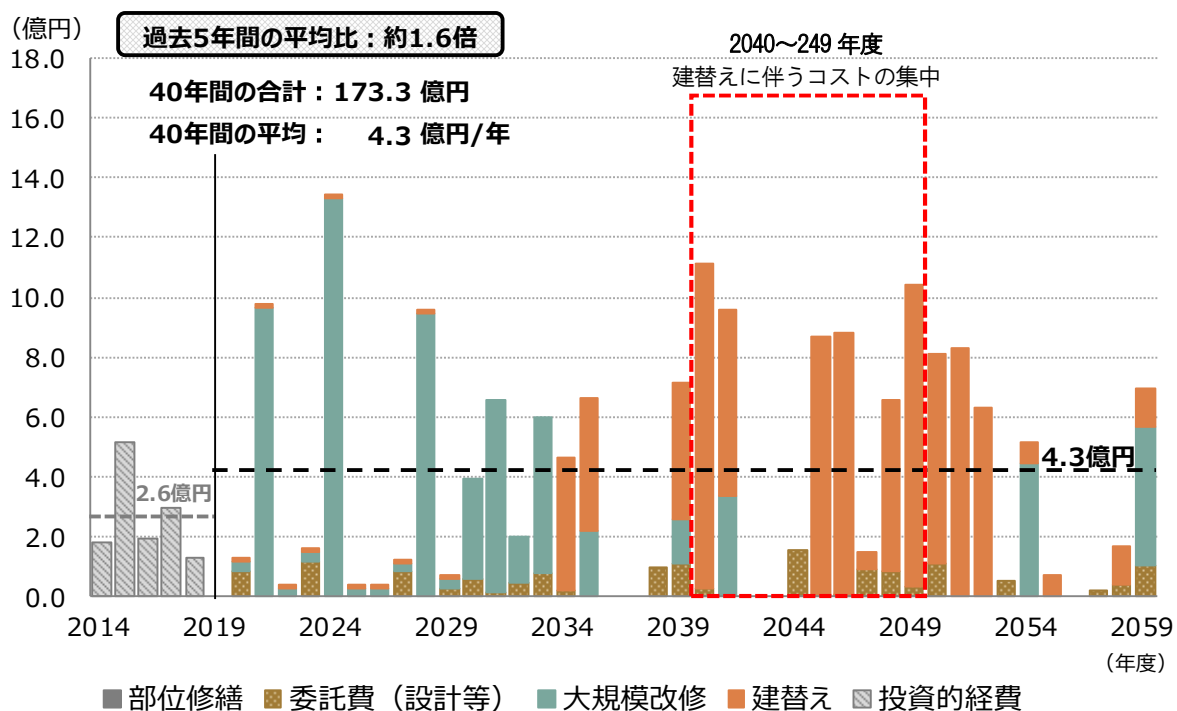


図 3-19 今後のコストの見通し（従来型）

各期間にかかるコストを比較すると、2040年度（令和22年度）から2049年度（令和31年度）の10年間には建替えが集中し、この期間にかかるコストは58.3億円となり、今後40年間に必要なコストの33.6%がこの期間に集中する見通しとなっています。

一時的なコストの集中が見込まれることから、トータルコストの縮減とともに、建物の長寿命化等によりコストの平準化を図ることが必要です。

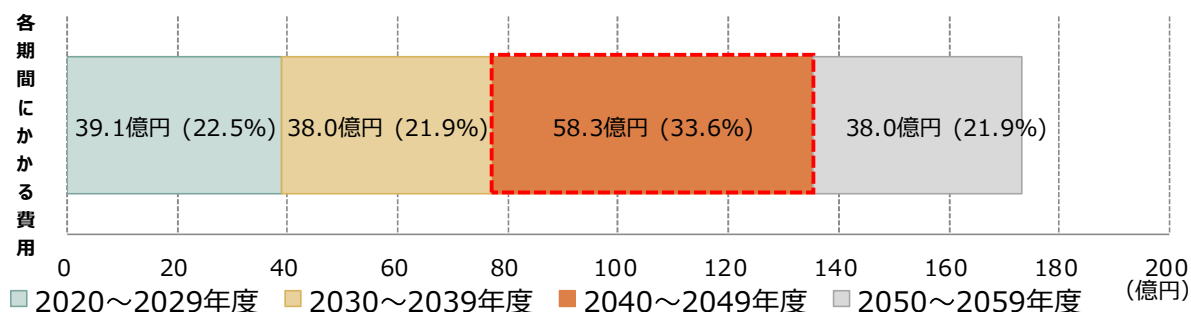


図 3-20 各期間にかかるコスト（従来型）

4. 学校施設整備の基本的な方針等

4-1. 学校施設の目指すべき姿

「鏡野町教育大綱(2015年4月)」においては、基本目標を「自立と共生を基に心豊かな教育の推進」とし、学校施設については、「確かな学力の定着を図り豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進」を基本方針に挙げ、子ども達が安心して学習できる環境づくりの推進を図ることとしています。

これを踏まえ、学校施設が目指すべき姿として、学校施設整備の方針を次のように定めます。

(1)安全・安心な学校施設

学校施設は児童生徒の「学習の場」であり、一日の大半を過ごす「生活の場」であることから、児童生徒の安心・安全な学習環境を確保するため、建物の安全性や耐久性を確保するとともに、防犯及び事故対策に配慮します。

(2)快適な学習環境

学校施設は児童生徒が一日の大半を過ごす「生活の場」であることから、児童生徒が落ち着いて、快適に学習及び生活が行えるよう、採光や通風、換気、防音、建物の断熱性等について配慮し、適切な室内環境を備えた環境を確保するとともに、障がいの有無に関わらず利用できるよう、施設のバリアフリー化を推進します。

(3)多様な学習内容・学習形態に対応した学習環境

国際化・情報化が進む社会の中で、学校における教育内容・教育方法も変化しています。そのため、多様な学習内容・学習形態に柔軟に対応した学習空間を整備するとともに、ICT化への対応等により学習環境の向上を図ります。

(4)地域拠点としての学校施設

地域の教育力を向上し、地域全体で子どもを育てる体制づくりを推進していくことは、今後、さらに重要性が増していきます。また、学校施設は災害時の避難施設となることから、地域防災にとっても重要な施設です。

そのため、学校施設を地域コミュニティの活動や生涯学習の拠点としても利用できるよう配慮するとともに、地域の避難施設としての機能を十分に果たすため、災害時の利用を考慮した施設整備を推進します。

(5)地球環境に配慮した学校施設

環境負荷に配慮した「エコスクール」の整備を目指すとともに、学校施設自体が環境教育の教材として活用されるよう、再生可能エネルギーの最大限の活用、省エネルギー対策、資源の再利用など、地球環境に配慮した施設の整備を推進します。

4-2. 改修等の基本的な方針

(1) 学校施設の規模・配置計画等の方針

① 施設規模の適正化

将来的な児童生徒数の減少が見込まれることから、現状の延床面積を今後も維持していくことは、空き教室数や改修及び建替えに係るコストの増大につながります。

このため、今後の建物の更新時には、将来の児童生徒数や学級数等を勘案して、延床面積の縮小等を行うことにより、施設規模の適正化を図ります。

② 改修及び建替えに係るコストの縮減・平準化

学校施設の改修及び建替えに係るコストの縮減と平準化を図ることが課題となっていることから、今後は、学校施設の使用年数を延ばす長寿命化を推進するとともに、効率的な施設整備や、メンテナンス費用等の削減等による改修及び建替えに係るコストの縮減に向けた取り組みを検討します。

③ 社会的要求に対応した学校施設の整備

学校施設に対する社会的要求への対応が課題となっていることから、今後は、児童生徒の快適性や地球環境等に配慮した施設整備や、多様な学習形態に対応した学習空間の整備等を推進するとともに、バリアフリー化等を通じて、誰もが快適に利用しやすい施設整備を図ります。

(2) 長寿命化の方針

従来の学校施設の改修等は、建物に機能上または安全上の支障が生じた後に、その機能回復を目的として建替えまたは改修を行ってきました。

今後は、以下の方針にもとづき、学校施設の長寿命化を推進します。

① 予防保全による計画的な維持管理の実施

点検結果にもとづき、建物や設備に不具合等が生じる前に改修等を計画的に実施する「予防保全」を通じた計画的な維持管理を行います。

② 長寿命化改修の実施

建物の物理的な不具合を直し、建物の耐久性を高めるとともに、建物の機能や性能を現在の学校に求められている社会的要求水準にまで引き上げる「長寿命化改修」を実施します。

(3) 目標使用年数の設定

建物の目標使用年数は、日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」にもとづき、RC造及び鉄骨造の建物で80年、木造では60年と設定します。

ただし、構造躯体の健全性評価において、長寿命化に適さないと判断された建物については、目標使用年数は50年とします。

表 4-1 構造別の目標使用年数

	RC造	鉄骨造	木造
長寿命化 可	80年	80年	60年
長寿命化 不可	50年		

なお、日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」においては、RC造及び鉄骨造の学校の望ましい耐用年数は、普通品質の場合で50～80年（代表値60年）、高品質の場合で80～120年（代表値100年）とされています。また、木造の望ましい耐用年数は50～80年（代表値60年）とされています。

表 4-2 学校施設の望ましい耐用年数（参考）

	RC造 鉄骨鉄筋コンクリート造		鉄骨造 (重量鉄骨)		木造
	高品質の場合	普通の品質の場合	高品質の場合	普通の品質の場合	
代表値	100年	60年	100年	60年	60年
範囲	80～120年	50～80年	80～100年	50～80年	50～80年
下限値	80年	50年	80年	50年	50年

出典：日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」

(4)改修周期の設定

① これまでの学校施設の改修周期

これまで、本町では建築後 20 年目を目途に学校施設の大規模改修を行ってきました。

これまでの学校施設の改修履歴をみると、大規模改修の実施時期の平均は、概ね建築後 25 年目となっています。

表 4-3 これまでの大規模改修実施履歴

学校名	建物名	建築年 (年度)	経過 年数 (年)	大規模改修 実施年度 (年度)	改修時の 経過年数 (年)
南小学校	管理教室棟	1985	34	2008	23
	食堂棟	1985	34	2008	23
	屋内運動場	1985	34	2019	34
大野小学校	管理教室棟	1988	31	2011	23
	食堂棟	1988	31	2011	23
	屋内運動場	1989	30	2012	23
鶴喜小学校	管理教室棟	1979	40	2000	21
	屋内運動場	1980	39	2014	34
香々美小学校	管理教室棟	1989	30	2010	21
	食堂棟	1989	30	2010	21
	屋内運動場	1990	29	2011	21
香北小学校	教室棟	1974	45	2018	44
	ランチルーム棟	2019	0	—	—
	屋内運動場	1957	62	2004	47
奥津小学校	管理棟	1991	28	2013	22
	特別教室棟-1	1991	28	2013	22
	特別教室棟-2	1991	28	2013	22
	ランチルーム棟	1994	25	2013	19
	屋内運動場	1991	28	2015	24
上齋原小学校	小学校棟	1980	39	2008	28
	特別教室棟	1987	32	1999	12
	屋内運動場	1980	39	2011	31
富小学校	普通教室・特別教室棟	2000	19	—	—
	給食棟	2000	19	—	—
	屋内運動場	2001	18	—	—
鏡野中学校	屋内運動場	1974	45	2011	37
	食堂棟	1974	45	1998	24
	校舎棟	2004	15	—	—
	講堂棟	2004	15	—	—
	増築棟	2015	4	—	—
郷幼稚園	保育棟	1990	29	1999	9
上齋原幼稚園	保育棟	1980	39	1999	19
鏡野町学校給食共同調理場	共同調理場	1998	21	2019	21
平均					25

② 今後の改修周期の設定

屋根防水や機械設備等の部位の更新周期は、概ね 20 年から 30 年であることを踏まえ、今後の大規模改修、長寿命化改修及び建替えの周期を次のように設定します。

ただし、構造躯体の健全性評価において、長寿命化に適さないと判断した建物については、建替えの周期を 50 年とします。

表 4-4 改修周期

工事種別	改修周期		
	長寿命化 可		長寿命化 不可
	RC造 鉄骨造	木造	
建替え	80年	60年	50年
大規模改修	20年	20年	20年
長寿命化改修	40年	40年	—

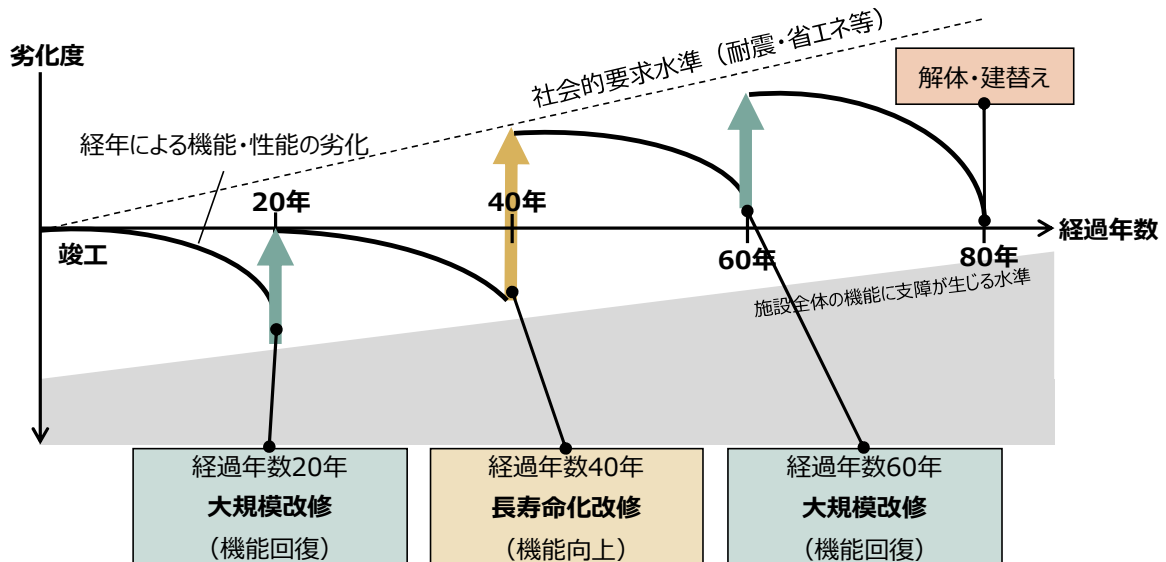


図 4-1 改修周期のイメージ (RC造・鉄骨造の場合)

4-3. 今後の維持・更新コストシミュレーション（長寿命化型）

- 今後 40 年間にかかるコスト（長寿命化型）
合計：157.0 億円 年間平均：3.9 億円（過去平均比の約 1.5 倍）
- 従来型と比較して、総額 16.3 億円（0.4 億円/年）の削減

(1) 試算条件

「長寿命化改修」とは、経年により老朽化した建物の物理的な不具合を直し、建物の耐久性を高めることに加えて、長期間にわたって建物を使用していくために、建物の機能や性能を現在の学校に求められている社会的要求水準にまで引き上げる改修のことです。

今後、長寿命化改修を行い、学校施設を建替え又は改修していく場合（以下、「長寿命化型」という。）にかかるコストを試算しました。

試算における周期及び単価は、以下のとおりとします。

表 4-5 試算条件

- 試算の期間は、2020年度（令和2年度）から2059年度（令和41年度）の40年間
- 建替え、大規模改修及び長寿命化改修の周期は、建替えを80年（木造60年）、大規模改修を20年、長寿命化改修を40年と設定
- 構造躯体の健全性評価において、長寿命化に適さないと判断した建物については、建替えの周期を50年と設定
- 2019年度（令和元年度）時点で未改修であり、すでに建替え又は改修の周期を経過している建物の建替・改修は、今後10年以内実施
- 2019年度（令和元年度）時点で、1回目の大規模改修を完了している建物は、前回の改修から20年後に長寿命化改修を実施
- 長寿命化改修又は建替えの前後10年間に予定される大規模改修は実施しない
- 大規模改修の単価は、建替えの単価の50%（16.5万円/m²）、長寿命化改修の単価は、建替えの単価の60%（19.8万円/m²）とし、工事単価を以下のように設定

工事種別	単価	改修周期		
		長寿命化 可		長寿命化 不可
		RC造 鉄骨造	木造	
建替え	33.0 万円/m ²	80 年	60 年	50 年
大規模改修	16.5 万円/m ²	20 年	20 年	20 年
長寿命化改修	19.8 万円/m ²	40 年	40 年	—

- 本町における過去 5 年間の実績を踏まえ、工事費に対する設計及び工事監理に係る費用の割合を9.1%と設定し、設計等に係る費用（委託費）を計上

参考：文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」

(2)長寿命化を実施した場合のコストシミュレーション

現状の延床面積を維持したまま、長寿命化改修を行った場合にかかるコストは、今後40年間で157.0億円となり、年間では平均で3.9億円となる見通しです。これは、過去5年間の学校施設に係る投資的経費の約1.5倍にあたります。

また、長寿命化改修を行わず、現状と同じ延床面積を維持したまま、建替え及び改修を続けた場合にかかるコスト（173.3億円（4.3億円/年））と比較して、総額16.3億円（0.4億円/年）の削減となっています。

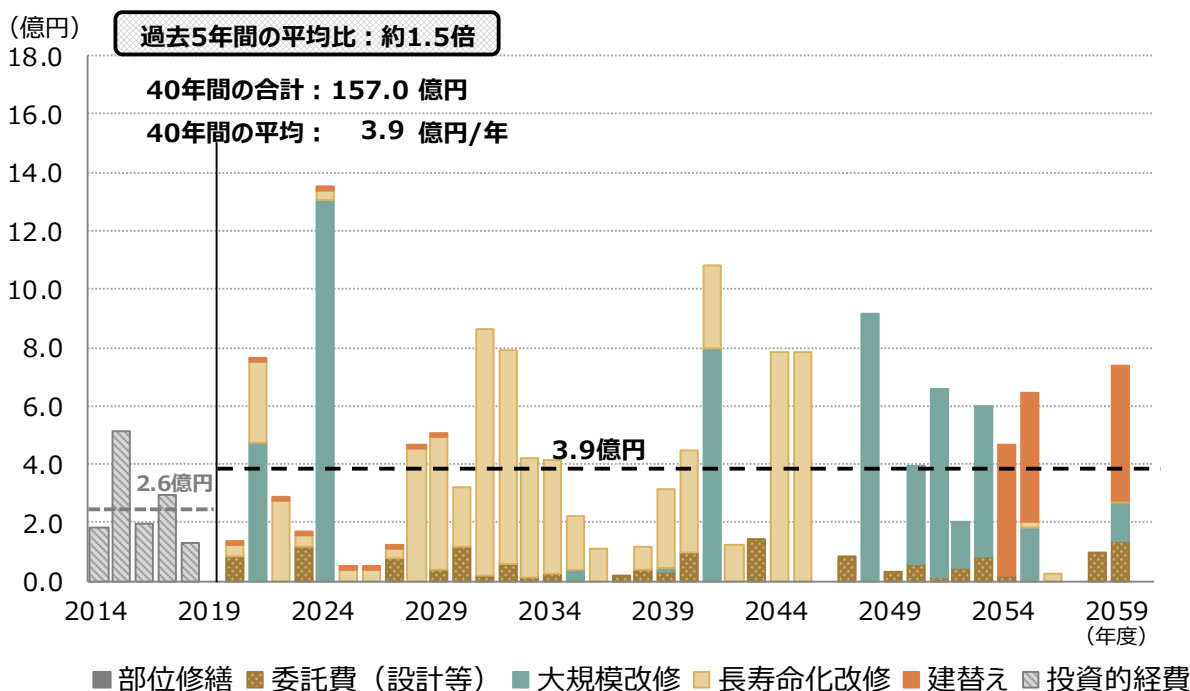


図 4-2 長寿命化のコストシミュレーション（長寿命化型）

各期間にかかるコストを比較すると、各10年間にかかるコストの割合は22.8%から27.9%となっており、10年間の単位で見れば、大きなコストの集中は見られず、コストは概ね平準化されています。

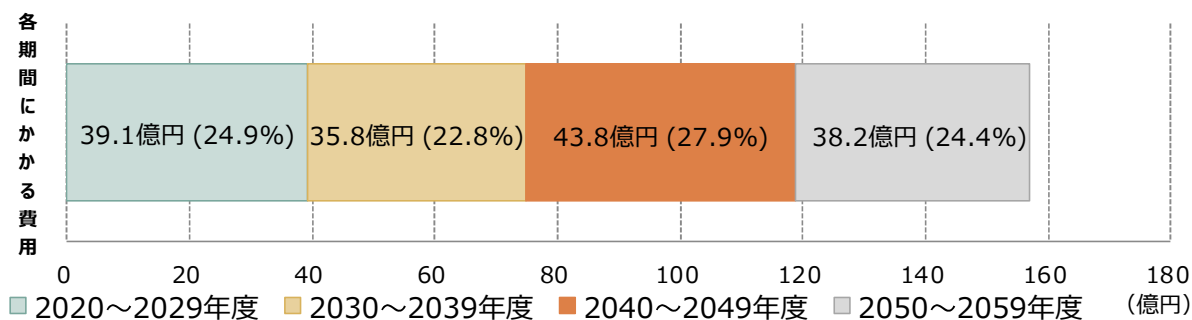


図 4-3 各期間にかかるコスト（長寿命化型）

(3)長寿命化の効果と課題

- 従来型と比較して、コストの平準化とトータルコストの縮減を図ることができる
- 更なるコストの平準化に向けた取り組みや、財政負担の軽減に向けた見直し、施設整備における民間活用等の多面的な見直しの検討も必要

長寿命化改修を行った場合(長寿命化型)は、従来と同様に建替え及び改修を行った場合(従来型)と比較して、コストの平準化とトータルコストの縮減を図ることができると考えられます。

一方で、長寿命化改修を行った場合にも、平均して年間3.9億円程度(過去平均比1.5倍)のコストが必要となることから、更なるコストの平準化に向けた取り組みや、財政負担の軽減に向けた、学校施設の配置、運営面・活用面における見直し、施設整備における民間活用等の多面的な見直しを行うことも考えられます。

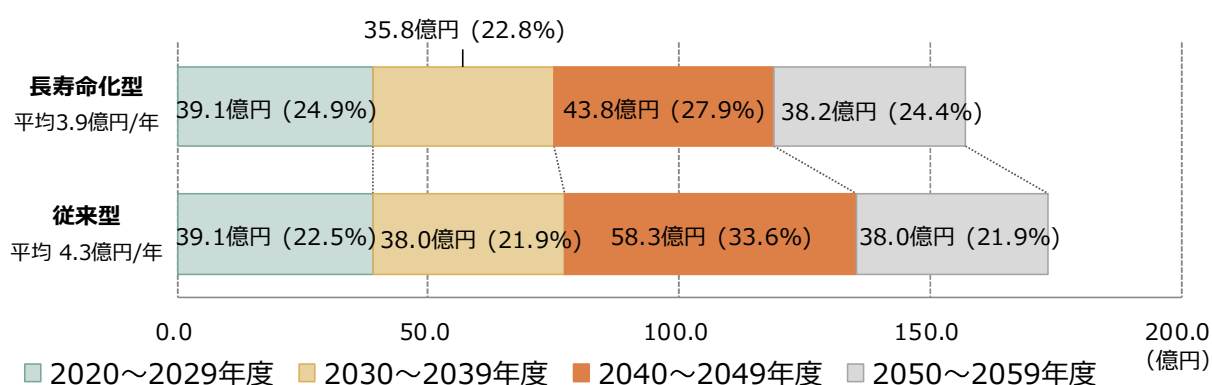


図 4-4 今後40年間にかかるコストの比較

5. 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

5-1. 改修等の整備水準等の基本的な方針

(1) 校舎及び園舎

校舎及び園舎における部位ごとの整備水準は、AレベルとBレベルの2つに分け、以下のように設定します。建物に求められる機能性や快適性、老朽化状況等に応じて、AレベルまたはBレベルの水準を選択し、整備します。

表 5-1 校舎及び園舎の整備水準

部位		整備水準	
		高 ← 低	
		Aレベル	Bレベル
屋根・屋上		【全面更新】 全面更新、断熱施工 (陸屋根：外断熱保護防水等) (勾配屋根：ガルバリウム鋼板等)	【防水層張替え】 防水層張替、断熱施工
外部仕上げ	外壁	【全面更新】 外壁塗装、断熱施工 (防水型複層塗材等)	【外壁塗替え】 外壁塗装、断熱なし (防水型複層塗材等)
	外部開口部	【サッシ・ガラス交換】 サッシ交換、複層ガラス等	【ガラス交換】 既存サッシ、複層ガラス等
	外部その他 手すり等の鉄部	【鉄部交換】 ステンレス手すり等	【鉄部塗装の塗替え】
内部仕上げ	教室等	【全面更新】 内装材の木質化等	【部分改修】 床・天井補修、 壁塗替え等
	便所	【全面更新】 ドライ仕様、 バリアフリー対応等	【部分改修】 床補修、 天井・壁塗替え等
電気設備	受変電設備	【受変電設備交換】 電気容量増設	【受変電設備交換】 電気容量不変
	照明器具	【全面更新】 LED照明器具 (人感・照度センサー付)	【全面更新】 LED照明器具 (センサーなし)
機械設備	空調設備	【全面更新】 パッケージエアコン等 (EHP・GHP)	【一部更新】 パッケージエアコン等 (EHP・GHP)
	給排水設備	【全面更新】	同左
	衛生設備 便器	【全面更新】 洋式便器の増設、 多目的トイレの設置等	同左

(2) 屋内運動場

屋内運動場における部位ごとの整備水準は、以下のように設定します。

表 5-2 屋内運動場の整備水準

部位		整備水準	
		高 ← 低	
		Aレベル	Bレベル
屋根・屋上		【全面更新】 全面更新、断熱施工 (ガルバリウム鋼板 等)	【全面更新】 防水層張替、断熱施工
外部仕上げ	外壁	【全面更新】 外壁塗装、断熱施工 (防水型複層塗材 等)	【外壁塗替え】 外壁塗装、断熱なし (防水型複層塗材 等)
	外部開口部	【サッシ・ガラス交換】 サッシ交換、複層ガラス等	【ガラス交換】 既存サッシ、複層ガラス等
	外部その他 手すり等の鉄部	【鉄部交換】 ステンレス手すり 等	【鉄部塗装の塗替え】
内部仕上げ	アリーナ等	【全面更新】 内装材の木質化 等	【部分改修】 床・天井補修、 壁塗替え 等
	便所	【全面更新】 ドライ仕様、 バリアフリー対応 等	【部分改修】 床補修、 天井・壁塗替え 等
電気設備	照明器具	【全面更新】 LED 照明器具 (人感・照度センサー付)	【全面更新】 LED 照明器具 (センサーなし)
機械設備	給排水設備	【全面更新】	同左
	衛生設備 便器	【全面更新】 洋式便器の増設、 多目的トイレの設置 等	同左

5-2. 維持管理の項目・手法等

(1) 維持管理の考え方

学校施設の安全性や機能を維持するため、定期的な点検・診断を行うとともに、老朽化状況や修繕・更新履歴等のデータを集積することにより、計画的な修繕及び改修への活用を図ります。

(2) 維持管理の項目・手法等

学校施設の長寿命化を図るためには、定期的・日常的な点検を行い、早期に異常等を発見し対処するとともに、快適な環境を維持しながら建物の仕上げ材等の寿命を延ばすための清掃を行うことが重要です。

維持管理の項目・手法等は以下のとおりです。

表 5-3 維持管理の項目・手法等

項目		目的・内容	実施時期
日常点検		日常の施設利用における不具合等の把握	毎日
定期点検	自主点検	施設の老朽化状況等の把握	年1回
	法定点検	資格者による建物・設備等の点検	定められた期間ごと
臨時点検		機器故障時や災害発生時等の状況把握・危険性の判断	機器故障時、災害発生時 等
清掃		快適な環境を維持しながら、建物の仕上げ材等の寿命を延ばすための塵・汚れ等の除去	毎日
情報管理		点検・工事履歴等の一元管理・活用	随時

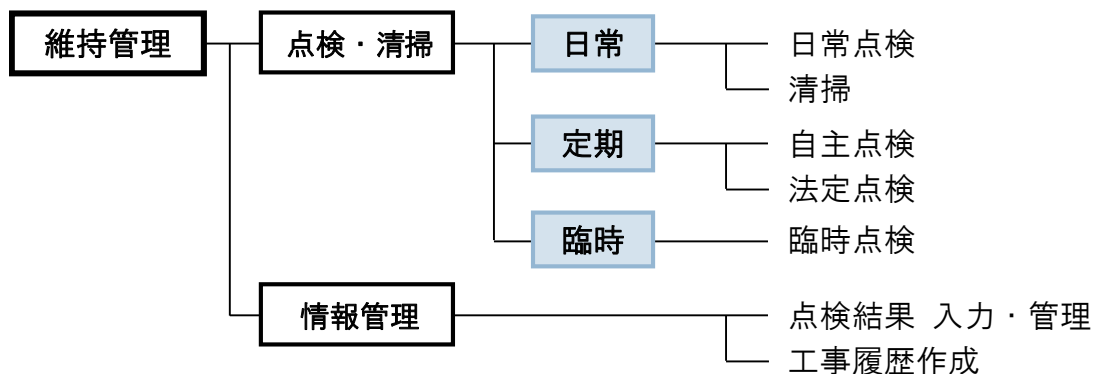


図 5-1 維持管理の体系

6. 長寿命化計画の実施計画

6-1. 検討の流れ

学校施設の長寿命化に向けた実施計画は、以下の流れで策定します。

まず、計画対象施設の各建物について、「建物評価」と「機能性評価」を行い、建替え及び改修等の優先順位を決定します。

「建物評価」は、老朽化状況調査にもとづく健全度と、建替え又は改修からの経過年数により耐久性と安全性を評価し、「機能性評価」は、バリアフリー対応状況により機能性を評価します。

さらに、各建物の建替え及び改修等の優先順位に加え、本町の財政状況等を踏まえて、今後10年間の実施計画を策定します。

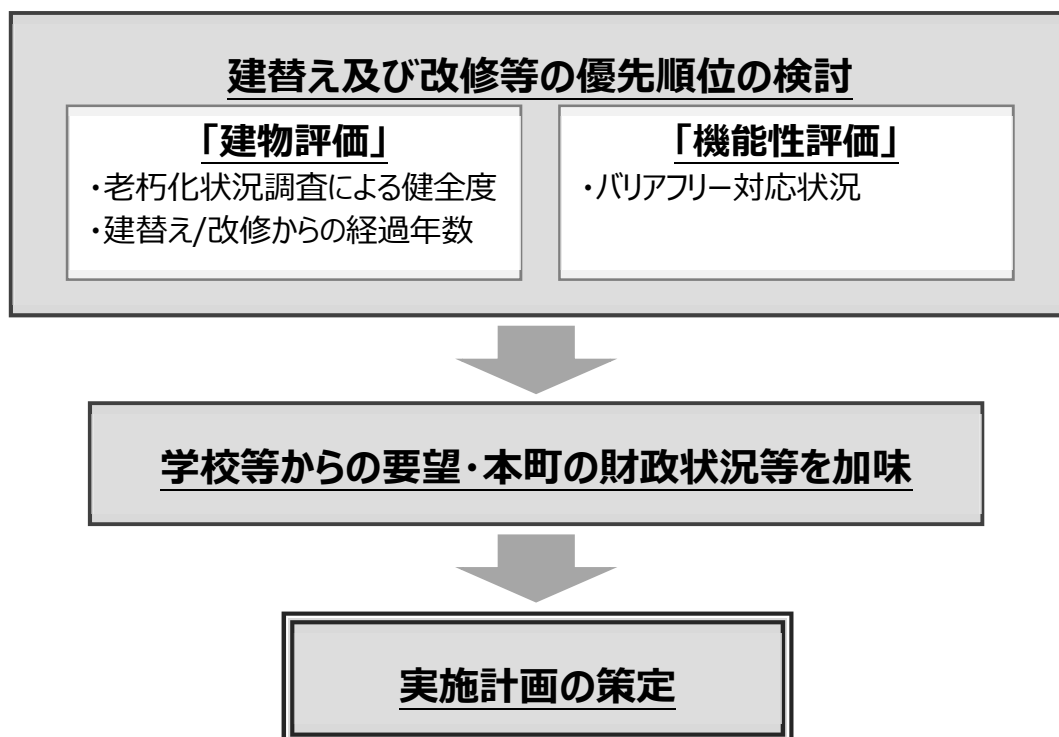


図 6-1 検討の流れ

6-2. 改修等の優先順位付けと実施計画

(1) 建替え及び改修等の優先順位

① 優先順位の設定方法

各建物の優先順位は、「建物評価」と「機能性評価」にもとづき決定します。

「建物評価」では、老朽化状況調査による健全度と、建替え又は大規模改修からの経過年数により耐久性と安全性を評価します。「機能性評価」では、バリアフリー対応状況により機能性を評価します。

表 6-1 評価項目

評価軸	評価項目	評価内容	考え方
建物評価	健全度	老朽化状況調査による健全度	建物の耐久性や安全性を評価
	経過年数	建替え又は大規模改修からの経過年数	
機能性評価	バリアフリー対応状況	多目的トイレ、スロープの有無	建物の機能性を評価

表 6-2 評価基準

評価軸	評価項目	判定基準	A 判定 (各3点)	B 判定 (各2点)	C 判定 (各1点)
建物評価	健全度	老朽化状況調査による健全度	健全度平均の100%以上	健全度平均の50~100%未満	健全度平均の50%未満
	経過年数	建替え又は大規模改修からの経過年数	20年未満	20年以上 40年未満	40年以上
機能性評価	バリアフリー対応状況	多目的トイレ、スロープの有無	整備済	一部整備済	未整備

この評価にもとづく優先順位は、優先度の高い順から「優先順位1~3」に分類します。

表 6-3 建替え及び改修等の優先順位判定

機能性評価 \ 建物評価	高	低
	高	優先順位 3
低	優先順位 2	優先順位 1

② 優先順位

計画対象施設の建替え及び改修等の優先順位は、以下のとおりです。

最も優先度の高い「優先順位1」の建物は9棟であり、「優先順位2」は7棟、「優先順位3」は17棟となっています。

表 6-4 優先順位

学校名	建物名	建替え・改修からの経過年数	健全度	建物評価点	機能性評価点	優先順位	
鶴喜小学校	管理教室棟	19年	68	5	1	優先順位1 (9棟)	
奥津小学校	特別教室棟-1	6年	89	5	1		
	ランチルーム棟	6年	81	5	2		
上齋原小学校	小学校棟	11年	68	5	1		
	特別教室棟	20年	75	4	1		
富小学校	普通教室・特別教室棟	19年	81	5	3		
鏡野中学校	食堂棟	21年	75	4	2		
郷幼稚園	保育棟	20年	65	4	1		
上齋原幼稚園	保育棟	20年	75	4	1		
南小学校	食堂棟	11年	91	6	1	優先順位2 (7棟)	
香々美小学校	食堂棟	9年	100	6	1		
香北小学校	教室棟	1年	100	6	1		
	屋内運動場	15年	91	6	1		
奥津小学校	特別教室棟-2	6年	91	6	1		
上齋原小学校	屋内運動場	8年	91	6	1		
富小学校	給食棟	19年	91	6	1		
南小学校	管理教室棟	11年	93	6	3	優先順位3 (17棟)	
	屋内運動場	0年	100	6	3		
大野小学校	管理教室棟	8年	100	6	2		
	食堂棟	8年	100	6	2		
	屋内運動場	7年	100	6	2		
鶴喜小学校	屋内運動場	5年	90	6	2		
香々美小学校	管理教室棟	9年	93	6	2		
	屋内運動場	8年	100	6	2		
香北小学校	ランチルーム棟	0年	100	6	2		
奥津小学校	管理棟	6年	91	6	2		
	屋内運動場	4年	93	6	2		
富小学校	屋内運動場	18年	91	6	3		
鏡野中学校	屋内運動場	8年	100	6	2		
	校舎棟	15年	93	6	3		
	講堂棟	15年	100	6	3		
	増築棟	4年	100	6	3		
鏡野町学校給食共同調理場	共同調理場	0年	100	6	3		
				平均点	6	2	

凡例 平均点以上

(2)実施計画

各建物の建替え及び改修等の優先順位や、本町の財政状況等を踏まえて、今後10年間の実施計画を策定します。

① 計画対象

実施計画の対象は、小学校8校、中学校1校、幼稚園2園、共同調理場1施設の校舎及び屋内運動場等とします。

なお、現在休園中の上齋原幼稚園と、令和2年度から休校となる上齋原小学校の具体的な改修時期等については、今後のあり方の検討も含め、今後検討することとします。

② 計画期間

計画期間は2020年(令和2年度)から2029年度(令和11年度)の10年間とします。

なお、本計画は5年ごとに見直すとともに、長寿命化改修等に際しては、構造躯体の健全性の調査等により、建物の老朽化状況や機能性等を把握し、必要に応じて改修及び建替え等の時期を再度検討します。

計画期間	2020年(令和2年度)から2029年度(令和11年度)(10年間)
------	------------------------------------

③ 計画条件

本町の過去5年間の学校施設に係る投資的経費は平均で2.6億円/年となっています。

今後10年間は、改修等に係るコストの上限を年間2.6億円程度と設定し、「優先順位1」の建物の改修等を優先的に実施することとします。

改修等に係るコストの上限	年間2.6億円程度
--------------	-----------

建替え及び改修の単価は以下のとおりとし、現状の延床面積を維持したまま建替え又は改修を実施することとして試算します。

また、本町における過去5年間の実績を踏まえ、工事費に対する設計及び工事監理に係る費用の割合を9.1%と設定し、設計等に係る費用(委託費)を計上します。

表 6-5 建替え及び改修の単価

工事種別	単価
建替え	33.0万円/m ²
大規模改修	16.5万円/m ²
長寿命化改修	19.8万円/m ²
設計・工事監理	工事費の9.1%

④ 今後 10 年間の実施計画

今後の 10 年間の実施計画を次ページに示します。

実施計画にもとづき長寿命化改修を行った場合のコストは、今後 10 年間に合計で 17.1 億円、年間では平均で 1.7 億円/年となる見通しとなっています。

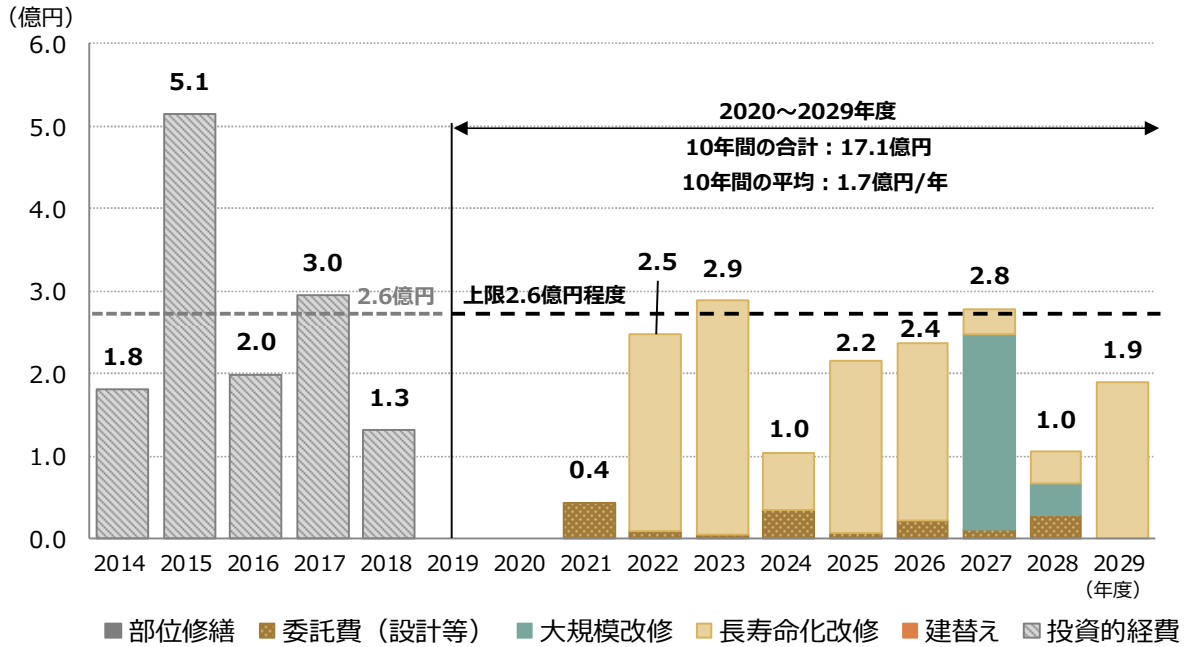


図 6-2 今後 10 年間にかかるコスト (実施計画)

表 6-6 今後 10 年間の実施計画

優先順位	学校名	建物名	建築年度 (年度)	健全度	建築からの 経過年数 (年)	改修からの 経過年数 (年)	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	備考
							2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	
優先順位1	鶴喜小学校	管理教室棟	1979	68	40	19		長寿命化改修 設計 43,709	長寿命化改修 ① 240,158	長寿命化改修 ② 240,158							
優先順位1	富小学校	普通教室・特別教室棟	2000	81	19	19							大規模改修① 設計 21,487	大規模改修① 236,115			
優先順位1	鏡野中学校	食堂棟	1974	75	45	21					長寿命化改修 設計 11,946	長寿命化改修 ① 65,637	長寿命化改修 ② 65,637				
優先順位1	郷幼稚園	保育棟	1990	65	29	20			長寿命化改修 設計 7,838	長寿命化改修 ① 43,065	長寿命化改修 ② 43,065						
優先順位1	上齋原小学校	小学校棟	1980	68	39	11					長寿命化改修 設計 21,439	長寿命化改修 ① 117,792	長寿命化改修 ② 117,792				今後の施設のあり方も踏まえ、 改修の実施時期は今後検討
優先順位1	上齋原小学校	特別教室棟	1987	75	32	20						長寿命化改修 設計 5,874	長寿命化改修 ① 32,274	長寿命化改修 ② 32,274			今後の施設のあり方も踏まえ、 改修の実施時期は今後検討
優先順位1	上齋原幼稚園	保育棟	1980	75	39	39				長寿命化改修 設計 4,685	長寿命化改修 ① 25,740	長寿命化改修 ② 25,740					今後の施設のあり方も踏まえ、 改修の実施時期は今後検討
優先順位2	南小学校	食堂棟	1985	91	34	11							長寿命化改修 設計 6,802	長寿命化改修 ① 37,371	長寿命化改修 ② 37,371		
優先順位2	香々美小学校	食堂棟	1989	100	30	9								長寿命化改修 設計 2,357	長寿命化改修 ① 12,950		
優先順位2	奥津小学校	特別教室棟-2	1991	91	28	6								長寿命化改修 設計 5,683	長寿命化改修 ① 31,221		
優先順位2	上齋原小学校	屋内運動場	1980	91	39	8								長寿命化改修 設計 19,675	長寿命化改修 ① 108,104		
優先順位2	富小学校	給食棟	2000	91	19	19							大規模改修① 設計 3,604	大規模改修① 39,600			
合計（千円）							0	43,709	247,996	287,908	102,190	215,043	237,190	278,795	104,686	189,646	

※建替え単価は延床面積当たり 33.0 万円/m²、大規模改修単価は 16.5 万円/m²、長寿命化改修単価は 19.8 万円/m²として工事費を算出したものである。

※工事費の 9.1%を設計費として加味している。

- 凡例
 長寿命化改修①：長寿命化改修工事 1 期目
 長寿命化改修②：長寿命化改修工事 2 期目
 建替え①：建替え工事 1 期目
 建替え②：建替え工事 2 期目

6-3. 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

(1) 長寿命化のコストの見通し・効果

実施計画にもとづき長寿命化改修を行った場合のコストは、40年間で合計157.3億円、年間では平均で3.9億円/年となる見通しとなっています。

これは、長寿命化改修を行わず、現状と同じ延床面積を維持したまま、建替え及び改修を続けた場合にかかるコスト（173.3億円（4.3億円/年））と比較して、総額16.0億円（0.4億円/年）の削減となっています。

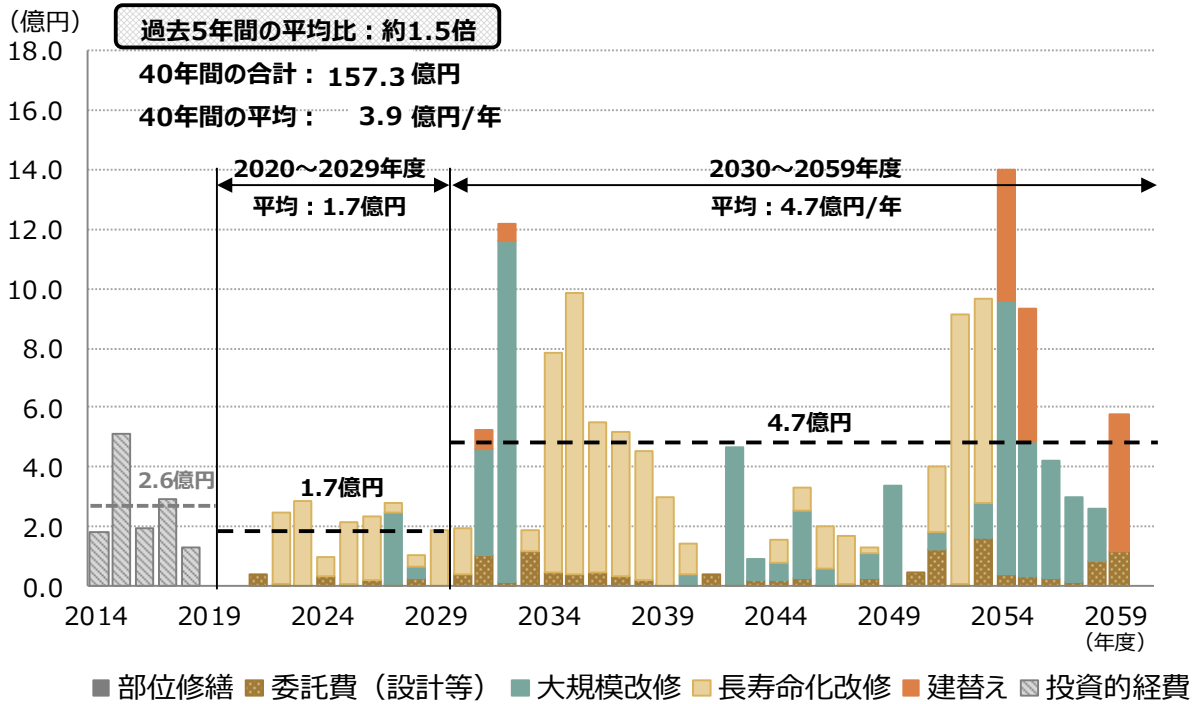


図 6-3 今後40年間にかかるコスト（実施計画）

(2) 今後の課題

なお、今後10年間は、改修等に係るコストの上限を年間2.6億円程度としてコストの平準化を図りますが、11年目以降（2030～2059年度）においては、過去5年間の学校施設に係る投資的経費の約1.8倍となる4.7億円/年の費用が必要となる見通しです。

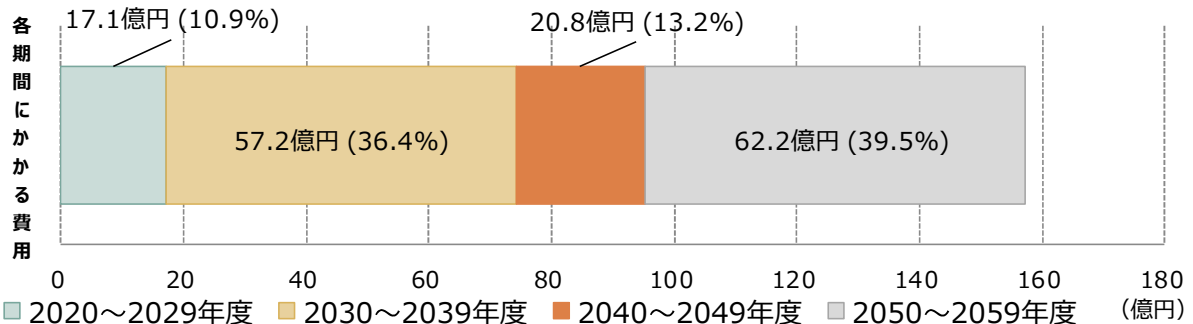


図 6-4 各期間にかかるコスト（実施計画）

7. 長寿命化計画の継続的運用方針

7-1. 情報基盤の整備と活用

(1) 維持管理に関するデータベースの整備

公立学校施設台帳にもとづく過去の改修履歴等に加え、定期点検や修繕及び改修の結果等をデータベースに集積し、情報を一元的に管理します。

(2) データベースの継続的な活用

データベースをもとに計画的な修繕及び改修を行うとともに、長寿命化改修工事の実施時や、定期点検の際に活用することで、継続的な長寿命化計画の運用を図ります。

7-2. 推進体制等の整備

(1) 横断的な連携体制の構築

長寿命化計画の継続的な運用においては、学校施設の状況把握や、予算編成等と連動した計画的な建物保全が必要となることから、教育委員会、学校、建築担当部署、財政担当部署等との連携が重要となります。

計画を継続的に運用し、学校施設の長寿命化を推進するために、これらの組織による横断的な連携体制の構築を検討します。

(2) 人材育成

学校施設に関わる職員一人ひとりが施設マネジメントの意義を理解し、創意工夫のもと実践していくことができるよう、職員の意識啓発や施設の点検等に係るノウハウの蓄積に向けた取り組みを推進します。

7-3. フォローアップ

本計画は、進捗状況や社会情勢の変化を考慮し、5年ごとに計画の見直しを行います。計画や目標値の見直しにあたっては、計画の進捗状況や目標達成状況を把握するとともに、データベースをもとに、点検結果から得られる施設の状況を評価し、計画の更新を行います。

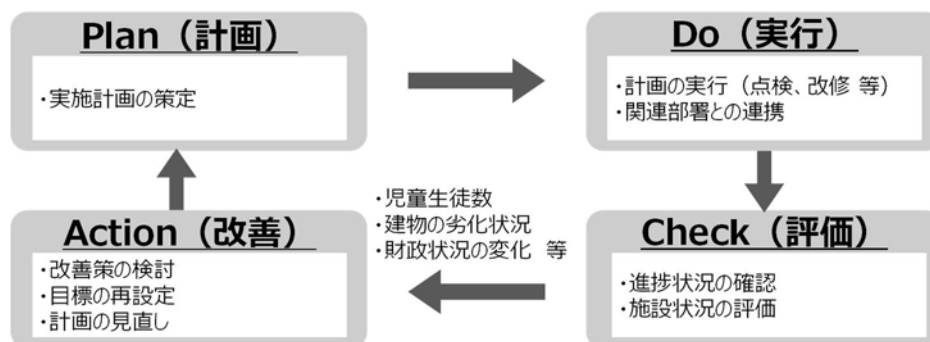


図 7-1 計画のフォローアップ (PDCAサイクル)

資料編

8. 資料編

8-1. 修繕周期の目安

建物を構成する屋根や外部仕上げ、設備等の各部位には、部材や材質等に応じた耐用年数の目安があります。部位の耐用年数を考慮して、計画的に修繕を行うことで、建物の機能を維持しながらその寿命を延ばすことにつながります。各部位の修繕周期の目安は次のとおりです。

(1) 建築

建物の屋根・屋上、外部仕上げ及び内部仕上げの修繕周期の目安は次のとおりです。

表 修繕周期の目安（建築）

部位		部材・工法等	修繕周期	
A. 屋根材・屋上防水		1. アスファルト保護防水	22	
		2. アスファルト露出防水	12	
		3. シート防水、塗膜防水	18	
		4. 勾配屋根（長尺カラー鉄板、折板）	12	
		5. 勾配屋根（ガルバリウム鋼板）	22	
		6. 勾配屋根（ステンレス鋼板）	30	
		7. 勾配屋根（スレート、和瓦類）	30	
B. 外部仕上げ	外壁	1. リシン系塗材吹付	15	
		2. 防水型複層塗材塗り（吹付）	15	
		3. タイル張り、石張り	20	
		4. コンクリート打放し	15	
		5. コンクリート系パネル（ALC等）	20	
		6. 杉羽目板張り保護塗料塗り	12	
		7. サイディングボード張り塗装仕上	15	
		8. ガルバリウム鋼板貼り	22	
	外部開口部（建具）	9. アルミ製サッシ	15	
		10. 鋼製サッシ	8	
		11. 断熱サッシ、省エネガラス		
	外部雑	手摺	12. 鋼製手摺DP/OP	8
			13. ステンレス製手摺	20
			14. アルミ製手摺	15
		屋外階段	15. 木製（集成材）手摺	12
			16. コンクリート階段塗材吹付	15
			17. 鋼製階段DP/OP	8
C. 内部仕上げ	床	1. フローリング張りウレタン塗装	12	
		2. 長尺塩ビシート貼り	12	
		3. ビニルタイル貼り	12	
		4. カーペット敷き	12	
		5. モルタルコテ押え塗装仕上	12	
	壁	6. 桧羽目板張りCL塗り	12	
		7. プラスターボードEP/クロス貼り	12	
		8. モルタルコテ押えVP/EP	12	
		9. ベニヤ合板VP/クロス貼り	12	
	天井	10. プラスターボードEP/クロス貼り	12	
		11. ロックウール化粧吸音板	15	
		12. 木毛セメント板（野地板）EP	15	
		13. 鉄骨構造材表しOP、断熱材吹付	12	
	内部建具	14. アルミ製建具	15	
		15. スチール製建具	12	
		16. 木製フラッシュドア	12	
		17. パーティション（固定式）		
		18. パーティション（可動式）		

(2)電気・機械設備

電気設備及び機械設備の修繕周期の目安は次のとおりです。

表 修繕周期の目安（電気・機械設備）

部位		修繕周期	
電気設備	受変電設備	25	
	防災設備	20	
機械設備	給水設備	給水管	25
		受水槽・高置水槽	27
		給水ポンプ	20
	給湯設備	ガス管（屋内）	30
		ガス管（屋外）	35
		ヒートポンプ給湯機	15
	排水設備	汚水・雑排水管	30
		屋外排水管	25
	消火設備	合併浄化槽	20
		消火栓設備	30
	衛生設備	便器	25
		洗浄便座	15
		手洗器	25
		水栓	15
	空調設備		15
換気設備		15	
昇降設備		30	

8-2. 用語集

用語	説明
ICT	「Information and Communication Technology」（情報通信技術）の略。情報処理や通信に関連する技術、産業、設備、サービス等の総称。
ICT教育	ICT機器を用いて、児童生徒の情報活用能力の育成等を図る教育のこと。
PDCAサイクル	Plan（計画の策定）、Do（計画の実行）、Check（計画の評価・分析）、Action（計画の改善）の4段階を繰り返すことによって、計画を継続的に改善していく手法のこと。
PFI	「Private Finance Initiative」の略。公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営において、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うことで、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図るという考え方のこと。
PPP（公民連携）	「Public Private Partnership」の略。公民が連携して、効率的かつ効果的に公共サービスを提供する手法のこと。このうち、公共施設等の設計・建設・維持管理・運営に民間の資金やノウハウを活用する手法をPFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）という。
圧縮強度	圧縮荷重に耐えられる最大応力のこと。
維持管理	建物や設備の性能や機能を良好な状態に保つため、建物や設備の点検・診断等を行い、必要に応じて建物の改修や設備の更新を行うこと。
インフラ長寿命化基本計画	国や地方公共団体等が一丸となってインフラの戦略的な維持管理・更新等を推進するために、平成25年11月に、インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議において策定された計画。 国民の安全・安心を確保し、中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図るとともに、維持管理・更新に係る産業（メンテナンス産業）の競争力を確保するための方向性を示している。
エコスクール	環境負荷の低減等により環境を考慮した学校施設のこと。環境負荷の低減に貢献するとともに、児童生徒の環境学習に施設を教材として活用し、地域の環境教育の発信拠点としても先導的な役割を果たす。
構造躯体	柱、梁、床等の建物の構造部分のこと。
事後保全	障害が発生した時点で修繕等を行う手法のこと。
修繕	建物や設備の損傷・老朽化箇所を修復して、一時的に機能を回復させること。
大規模改修	経年老朽化した建物の原状回復を図る工事のこと。
耐用年数	建物や設備機器を使用するうえで予測される使用可能な年数。
建替え／更新	既存の施設を再建設（建替え）すること。
長寿命化	計画的な保全（修繕や改修）を実施することにより、建物の構造的・機能的な寿命を延ばすこと。
長寿命化改修	建物の物理的な不具合を直し、建物の耐久性を高めるとともに、建物の機能や性能を現在の学校に求められている社会的要求水準にまで引き上げる工事のこと。

用語	説明
投資的経費	道路、橋梁、公園、学校、公営住宅等の社会資本の整備等に要する費用のこと。
文部科学省インフラ 長寿命化計画 (行動計画)	「インフラ長寿命化基本計画」にもとづき、文部科学省の所管施設等の長寿命化に向けた各設置者による取り組みを推進するために策定された行動計画。 施設の安全性と、公共施設に求められる機能を確保するとともに、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図るための方向性を示している。
予防保全	障害が発生する前に、計画的に施設の点検・診断等を行い、障害の発生を未然に防止する手法のこと。
ライフサイクルコスト	施設等の建設・建築費だけでなく、維持管理、運営、修繕、廃棄までの事業全体にわたり必要な総費用。初期建設費のイニシャルコストと、光熱水費、保全費、改修・更新費等のランニングコストにより構成される。